Pioneer sound.vision.soul

AVマルチチャンネル・アンプ

VSX-516

簡単ガイド
自動設定
接続
各部の名称
再生
設定
ラジオ
録音／録画
USB
リモコン
その他

インターネットによるお客様登録のお願い

http://www.pioneer.co.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

安全上のご注意

●安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
●ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

- 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。

● **着脱式の電源コード(インレットタイプ)が付属している場合のご注意:**
付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

使用環境

● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

● 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

● 表示された電源電圧(交流100ボルト 50 Hz/60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

● この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

● ぬれた手で(電源)プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

● 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

● 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。

● 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

● 製品に付属の電源コンセントには、そのパネルおよび取扱説明書に表示された容量を超える消費電力を持つ電気機器を接続しないでください。火災の原因となります。
電熱器具、ヘアードライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また表示してある電力以内であっても、電源を入れた時に大電流の流れる機器などは接続しないでください。

⚠ 注意

設置

● 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

● 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

● ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

● 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● キャスター付きの場合にはキャスター止めをしてください。動いたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

● テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

● 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

異常時の処置

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

- ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。

- レーザーを使用している機器では、レーザー光源をのぞきこまないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

- お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。

- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

- 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(＋)マイナス(－)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中にいれないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

目次

第 1 章:

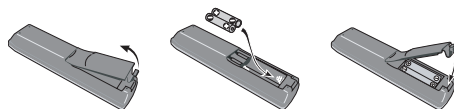
はじめに

付属品の確認

以下の付属品があることを確認してください。

- セットアップ用マイク
- AM ループアンテナ
- FM アンテナ
- 単 3 形乾電池（動作確認用 × 2）
- リモコン
- 保証書
- 取扱説明書（本書）

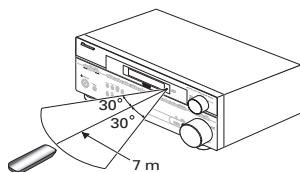
リモコンに電池を入れる

重要

電池を誤って使用すると液漏れや破裂の危険があります。次の注意を守ってください。

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。

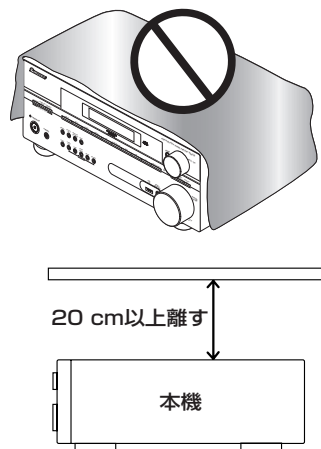
- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を出す機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用した他のリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

本機の設置

- 本機を設置するときは、必ず平らで安定した面に設置してください。

次の場所には本機を設置しないでください。

- テレビの上（映像が歪むことがあります）
- カセットデッキまたは磁気を発する機器の近く (音声に悪影響を与えることがあります）
- 直接日光の当たる場所
- 湿気のある場所
- 高温または低温の場所
- 振動のある場所
- ほこりの多い場所
- 台所など煙が出たり油を使用する場所

設置について

- 放熱のため、本機の上に物を置いたり、布やシートなどを被せた状態でのご使用は絶対におやめください。異常発熱により故障の原因となる場合があります。
- ラックなどに設置する場合は、上部に 20 cm 以上空間をあけてください。

第 2 章:

簡単ガイド

ホームシアター入門

ホームシアターとは、ソフトに収録された複数の音声を 3 本以上のスピーカーで再生してサラウンド効果を作ることで、まるでコンサート会場や映画の場面の中にいるような臨場感をお楽しみいただくことができます。再生するソフトの音声信号の種類や設置したスピーカー、本機のサラウンド設定などによっていろいろなサラウンド効果を得ることができます。

本機では、ドルビーデジタルや DTS などの DVD ソフトに記録されたマルチチャンネル音声を、スピーカーの状況に合わせて、自動で最適に再生します。また、ソフトが 2ch の場合でもドルビープロロジック IIx や Neo:6 モードにすることでマルチチャンネルサラウンド再生を行うことができます。詳しくは「機器の再生」(31 ページ)をご覧ください。

サラウンド再生を楽しむ

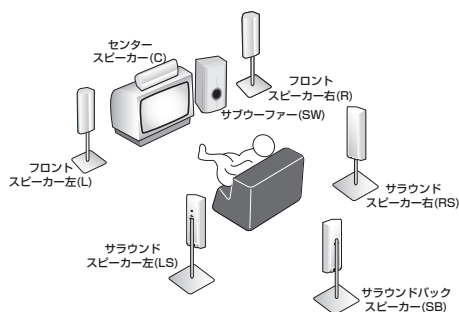
以下の手順のとおりに接続、設定を行うだけで簡単にサラウンド再生を行うことができます。設定についてはほとんどの場合、工場出荷時の設定のままで再生できるように設定されています。

- 機器の接続を行うときは、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

1 テレビ/ DVD プレーヤーを本機と接続する。

サラウンド再生をするには、DVD プレーヤーと本機をデジタル接続する必要があります。詳しくは「テレビ/ DVD プレーヤーの接続」(15 ページ)をご覧ください。

2 スピーカーの設置と接続をする。

「スピーカーの接続」(21 ページ)をご覧になり、スピーカーを接続してください。スピーカーの設置のしかたは音質に大きく影響しますので、次の図のように最適な場所に設置してください。

3 DVD プレーヤーやテレビ、サブウーファーの電源を入れ、本機の電源も入れる。

テレビの映像入力を本機の出力映像が表示されるように設定します。この方法がわからない場合は、テレビの取扱説明書をご覧ください。

4 簡単設定(QUICK SETUP)でスピーカーシステムや部屋の大きさ、視聴位置などを設定する。

本体の **MULTI JOG** と **ENTER** を使って簡単に設定することができます。詳しくは「簡単設定(QUICK SETUP)」(9 ページ)をご覧ください。

5 DVD を再生して、本機の音量を調整する。

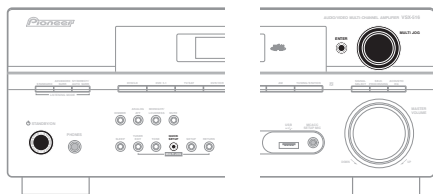
リモコンの **DVD/LD** ボタンを押して、本機の入力を DVD/LD にします。[1] 表示部に DVD/LD と表示されていることを確認してください。[2]

メモ

1 DVD プレーヤーの音声出力設定を、「Dolby Digital」や「DTS」、「88.2 kHz / 96 kHz PCM」音声信号が出力されるように設定します。詳しくはお手持ちの DVD プレーヤーの取扱説明書をご確認ください。
2 AUTO SURR. インジケーターが点灯していることを確認してください。点灯していないときは **STEREO** ボタンを押して AUTO SURROUND モードを選択します。

本機ではいろいろな再生効果を選ぶことができます。詳しくは「機器の再生」（31 ページ）をご覧ください。[1] また、より詳細な設定については「システムセットアップで本機の設定をする」（37 ページ）をご覧ください。

簡単設定（QUICK SETUP）

QUICK SETUP では快適なリスニング環境を簡単に設定することができます。スピーカーの本数、部屋のサイズ、視聴位置などを選択することで、スピーカーから聴こえる音のタイミングや大きさのずれなどを補正します。
より高精度に自動測定する「Auto MCACC」をお勧めします。「Auto MCACC」を行うときは簡単設定を行う必要はありません。

1 ⏻ STANDBY/ON ボタンを押して本機の電源を入れる。

2 QUICK SETUP ボタンを押す。

- ディスプレイに **SW DET** と点滅表示したあと、サブウーファーが接続されているかどうかの自動検出を行います。サブウーファーを検出したときは **SW YES** と表示され、検出しなかったときは **SW NO** と表示されます。

3 MULTI JOG で接続しているスピーカーの本数を選ぶ。

サブウーファーの自動検出が **YES** の場合：
2.1ch – 3.1 ch – 4.1ch – 5.1ch – 6.1ch

サブウーファーの自動検出が **NO** の場合：
2.0ch – 3.0ch – 4.0ch – 5.0ch – 6.0ch

- スピーカーシステムの詳細は以下のとおりです。

	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	サブウーファー
2.0 ch	√				
2.1 ch	√				√
3.0 ch	√	√			
3.1 ch	√	√			√
4.0 ch	√		√		
4.1 ch	√		√		√
5.0 ch	√	√	√		
5.1 ch	√	√	√		√
6.0 ch	√	√	√	√	
6.1 ch	√	√	√	√	√

4 ENTER ボタンを押す。

5 MULTI JOG で部屋の大きさを選ぶ。

S、**M**、**L** が切り換わります。部屋がおよそ 6 畳以下のときは **S** を、8 ～ 12 畳のときは **M** を、14 畳以上のときは **L** を選択します。

6 ENTER ボタンを押す。

7 MULTI JOG で視聴位置を選ぶ。

- **FWD** – 視聴位置からフロントスピーカーが近いとき
- **MID** – 視聴位置からすべてのスピーカーが同じ距離のとき
- **BACK** – 視聴位置からサラウンドスピーカーが近いとき

8 ENTER ボタンを押して設定を確認する。

ディスプレイにスピーカーの本数とルームサイズ、リスニングポジションの設定が表示され、確認終了後、簡単設定が自動的に終了します。

メモ
1 DVD プレーヤーや再生するソフトによっては 2ch のみの再生となることがあります。このようなときにマルチチャンネルで再生したいときは「STANDARD」を選択してください。

第 3 章：

サラウンドの自動設定（Auto MCACC）

Auto MCACC で自動設定する

Auto MCACC（Multi Channel Acoustic Calibration System）では、スピーカーの大きさやリスニングポジションからの距離、部屋の暗騒音まで考慮して、視聴環境の周波数特性を測定し、各スピーカーの出力遅延と出力レベルも調節します。設定はスピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップマイクで測定し、解析します。

重要

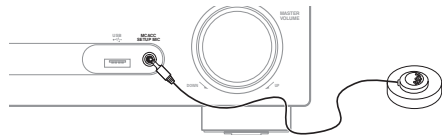
- **Auto MCACC** 設定を行うと、それ以前に行ったスピーカーに関する設定は、すべて上書きされます。
- **Auto MCACC** 設定を行う前に、**PHONES** 端子にヘッドホンが接続されていないことを確認してください。
- 付属のセットアップ用マイクを TV モニターの近くに置いて Auto MCACC 設定を行わないでください。

注意

- **Auto MCACC** 設定では、テストトーンが大音量で出力されます。

1　本機の電源を入れる。

2　フロントパネルの MCACC SETUP MIC 端子にマイクを接続する。

スピーカーとマイクの間に障害物がないことを確認してください。

リスニングポジションにマイクを設置するとき、三脚を使ってマイクを耳の高さにします。三脚がないときは、台や椅子などでマイクが耳の高さで水平になるようにしてください。

3　リモコンの AV アンプボタンを押してから、設定ボタンを押す。

システムセットアップになります。リモコンの ⬆/⬇/⬅/➡ と**決定**ボタンを使って、操作項目を選びます。

前の画面に戻るには、**戻る**ボタンを押します。

- システムセットアップを終了するには、**設定**ボタンを押します。

4　⬆/⬇ ボタンで「A. MCACC」を選んで決定ボタンを押す。

5　自動測定が開始されます。

- マイクが正しく接続されているかを確認してください。

- 本機は、サブウーファーが接続されているかを電源を入れるたびに自動検出します。サブウーファーを接続しているときは、サブウーファーの電源を入れて音量を適度に上げておいてください。

6 Auto MCACC 設定が開始されます。

スピーカーシステムの確認のためテストトーンが出力されて、測定中を示す表示になります。測定中はできるだけ静かにしてください。また、テストトーンによる測定中は音量を調整しないでください。正しく測定されないことがあります。

騒音が大きい場合は「NOISY!」表示が 5 秒間点滅します。「RETRY？」と表示されますので、部屋の騒音をもう一度確認し、静かにしてから**決定**ボタンを押して設定をやり直します。

7 スピーカーの有り無しを確認する。

測定が終わると「CHECK OK」と表示されるので、⬆/⬇ ボタンで各スピーカーの測定結果を確認し、実際のスピーカー接続と合っているかを確認します。

有無 / スピーカー	接続している	接続していない
F フロント左右	YES	NO
C センター	YES	NO
S サラウンド左右	YES	NO
SB サラウンドバック	YES	NO
SW サブウーファー	YES	NO

スピーカーの測定結果が間違っていたときは ⬆/⬇ ボタンでスピーカーを選んで ⬅/➡ ボタンで設定を変更します。

エラー（ERR）が表示されたときは、マイクやスピーカー接続に問題があるかもしれません。

「ERR」表示には以下のような種類があります。

- ERR MIC – マイクの接続を確認してください。
- ERR Fch – フロントスピーカーの接続を確認してください。
- ERR Sch – サラウンドスピーカーの接続を確認してください。
- ERR SBch – サラウンドバックスピーカーの接続を確認してください。
- ERR SW – サブウーファーの電源を入れて音量を上げてください。

「RETRY」を選んで再測定しても同じエラーが表示されるときは、電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

8 「CHECK OK」と表示させてから決定ボタンを押す。

スピーカー出力レベル、スピーカーまでの距離、周波数特性の補正が開始され測定中を示すディスプレイとなります。

サブウーファーのボリュームが高すぎるときは「SW.VOL.DOWN」表示が、低すぎるときは「SW.VOL.UP」表示が 5 秒間点滅します。「RETRY？」と表示されますので、サブウーファーの音量を調節してから**決定**ボタンを押して設定をやり直します。

9 ディスプレイに「SKIP?」と表示されたら自動測定は終了です。

下記の項目を ⬆/⬇/⬅/➡ / **決定**ボタンで選び、それぞれの設定値を確認することができます。[1]

戻るボタンを押すと一つ前の表示に戻ります。

- **CHK SP** – 接続したスピーカーの有り無しと低音再生能力の有り無し

CHK SP SP▶A -60 dB

メモ

1 · スピーカーの大小判定について、コーンサイズ 12 cm 程度の同じスピーカーを使っていても、測定時の部屋の環境によっては異なった判定をすることがあります。この場合は「聴感によるスピーカーの設定 (SP SETUP)」(42 ページ）で手動で設定を変更できます。

· スピーカーまでの距離について、サブウーファーまでの距離が、リスニングポジションからの実際の距離よりも遠めに設定されることがあります。この設定は（遅延補正や部屋の特徴を考慮に入れた）正しい設定値のため、特に変更する必要はありません。

- **CHK DIST.** – スピーカーまでの距離

CHK DIST. SP►A -60 dB

- **CHK LEVEL** – スピーカーの出力バランス

CHKLEVEL SP►A -60 dB

- **CHK EQ** – 視聴環境の周波数特性の補正

CHK EQ SP►A -60 dB

確認が終了したら手順 10 へ進みます。

10 「SKIP?」を選んで決定ボタンを押す。

Auto MCACC が終了し、システムセットアップに戻ります。

アコースティック EQ が自動的に ON になり MCACC インジケーターが点灯します。

Auto MCACC では自動で最適なサラウンド環境を設定しますが、システムセットアップから項目を選んで、各設定を手動でも調整することができます。詳しくは 37 ページをご覧ください。

Auto MCACC 設定時におけるその他の問題

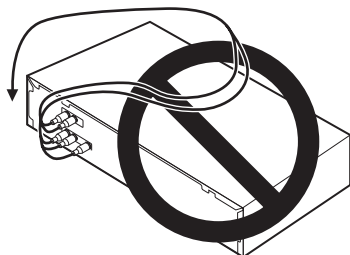
部屋の環境が Auto MCACC 設定に適していない場合（騒音が大きい、壁の残響が大きい、スピーカーとマイクの間に障害物があるなどの場合）、正しい測定結果を得られないことがあります。測定に影響を与える可能性のある機器（エアコン、冷蔵庫、扇風機など）を確認し、必要に応じてそれらの電源を切ってください。フロントパネルの表示部にメッセージが表示された場合は、その指示に従ってください。

- 旧型のテレビによっては、マイクでの測定に影響を与えるものがあります。その場合は、Auto MCACC 設定のときだけテレビの電源を切ってください。

第 4 章:

接続

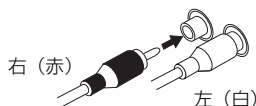
接続コードについて

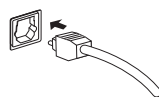
コードやケーブルを本機の上や近くに曲げて置かないよう注意してください。コードやケーブルが本機の上に置かれていると、本機の電源装置から磁場が生じて、スピーカーから「ブーン」というハムノイズが発生する原因となります。

重要

- 機器の接続を行うときは、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 電源コードを抜くときは、必ず本機の電源を切ってから抜いてください。

アナログオーディオコード

アナログのオーディオ機器に接続するには、オーディオコードを使用します。一般的な赤／白プラグのケーブルで、赤いプラグを R (右) 端子に、白いプラグを L (左) 端子に接続します。

アナログオーディオコード

デジタルオーディオケーブル

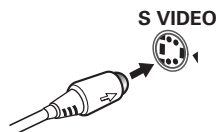
デジタル機器と本機を接続するには、市販の同軸デジタルケーブルまたは光ファイバーケーブルを使用します。[1]

ビデオコード

ビデオコード

一般的な映像用コードで、コンポジットビデオ端子に接続します。オーディオコードと区別するため、黄色のプラグです。

ビデオコード（黄）

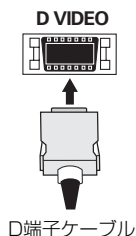
S ビデオコード

映像信号（Y）と色信号（C）を分離して接続することができ、コンポジットよりも高品位な映像品質を楽しめます。

Sビデオコード

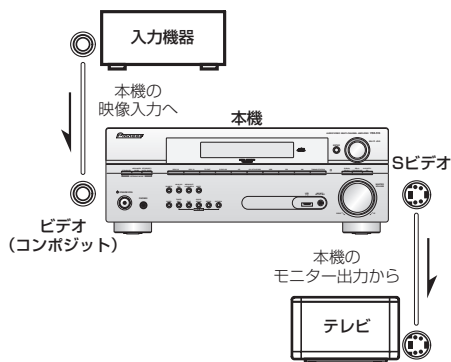
メモ

1 · 光ファイバーケーブルを接続するときは、端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。
· 急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が 15 cm 以上になるようにしてください。
· 同軸デジタルの接続で、同軸ケーブルには一般的なビデオコードを使用できます。

D 端子ケーブル

映像信号と映像コントロール信号を、1 つのコネクタで接続できるケーブルです。S ビデオコードよりも高品位な映像を楽しむのに適しています。

映像機器の接続について（パイオニアビデオコンバーター）

入力機器と本機とテレビの接続には必ず同じ種類のケーブルをお使いください。

本機は入力されたビデオ（コンポジット）信号を S ビデオ信号に変換することのできるビデオコンバーターを搭載していますので以下のように接続することができます。[1]

メモ

1 ・入力機器とテレビの両方に S ビデオ端子／D 端子が付いているときは、S ビデオ端子／ D 端子で接続すると、より鮮明な映像を再生することができます（D 端子どうしの接続が最も良い画質となります）。

・テレビによっては、S ビデオ入力とコンポジット入力の両方を接続していると、信号の有無にかかわらず常に S ビデオ入力が優先され、コンポジット端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

・D 端子を使用する場合は、市販の D 端子ケーブルをお買い求めください。

テレビ／DVDプレーヤーの接続

テレビ／DVDプレーヤーと本機の接続について説明します。

1 DVD プレーヤーの同軸デジタル音声出力と、本機の DIGITAL IN COAX1 (DVD/LD) 入力を接続する。

接続には同軸デジタルケーブルを使用します。[1]

2 DVD プレーヤーのステレオ音声出力[2]および映像出力と本機の DVD/LD AUDIO/VIDEO IN 端子を接続する。

一般的なビデオコードとオーディオコード[3] を使用します。

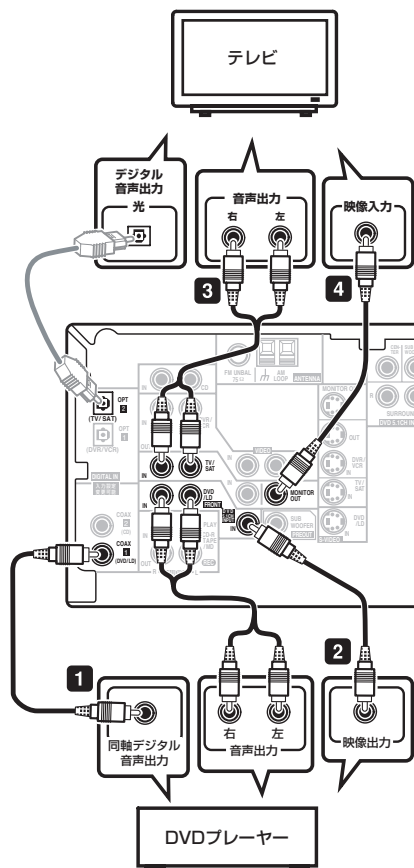
- DVD プレーヤーにマルチチャンネルアナログ音声出力端子がある場合は、「マルチチャンネルアナログ機器の接続」（16 ページ）での接続方法をご覧ください。

3 TV のアナログ音声出力と本機の TV/SAT 入力を接続する。

これはテレビのチューナーを使って音声を楽しむ場合にオーディオコードを使用します。

テレビにデジタルチューナーが内蔵されている場合は、光ファイバーケーブルを使用してテレビの光デジタル音声出力と本機の **DIGITAL OPT2(TV/SAT)** 入力を接続することもできます。[4]

4 本機の MONITOR OUT 端子とテレビの映像入力端子を接続する。

一般的なビデオコードを使用してコンポジットビデオ端子に接続します。

メモ

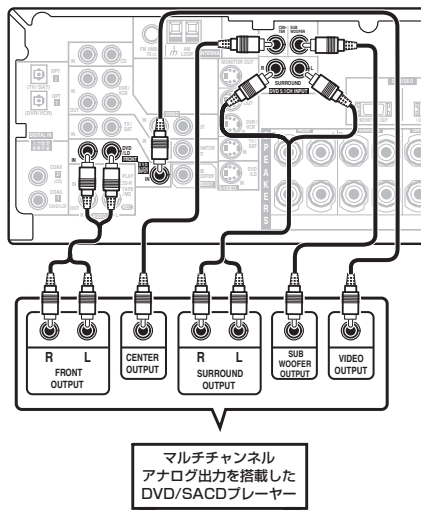
1 DVD プレーヤーに光デジタル音声出力端子しかない場合は、光ファイバーケーブルを使って本機の OPT1 または 2 端子に接続することができます。この際、本機の入力設定で光デジタル入力端子の設定を行う必要があります。詳しくは「入力に関する設定 (IN ASSIG.)」（45 ページ）をご覧ください。

2 この接続は、DVD プレーヤーからアナログ音声での録音の際に必要となります。

3 DVD プレーヤーに S ビデオ映像出力端子があるときは、**S-VIDEO DVD/LD IN** 端子に接続することでより良い映像をお楽しみいただくことができます。D ビデオ映像出力端子があるときも同様です。詳しくは「D4 ビデオ映像端子を使用する」（19 ページ）をご覧ください。

4 **S-VIDEO MONITOR OUT** 端子に接続することでより良い映像をお楽しみいただくことができます。また、本機の **D4 VIDEO MONITOR OUT**端子を使ってテレビと接続する場合は、「D4 ビデオ映像端子を使用する」（19 ページ）をご覧ください。

マルチチャンネルアナログ機器の接続

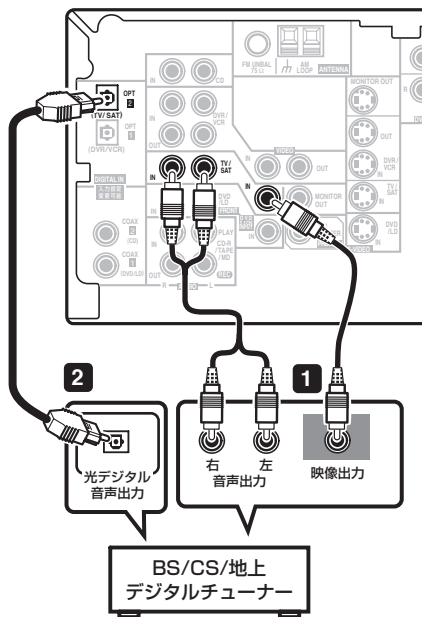
DVD オーディオや SACD の再生には DVD プレーヤーの 5.1 チャンネルアナログ出力を使用します。本機の DVD 5.1CH INPUT 端子の接続は以下のとおりです。[1]

BS/CS/ 地上デジタルチューナーの接続

衛星放送やケーブルテレビチューナー、地上波デジタルチューナーなどの映像機器との接続について説明します。

1 チューナー機器の音声／映像出力と、本機の TV/SAT AUDIO/VIDEO IN 端子を接続する。[2]

音声の接続にオーディオコード、映像の接続に一般的なビデオコードを使用します。[3]

2 チューナー機器の光デジタル音声出力と本機の DIGITAL OPT2(TV/SAT) 入力を接続します。

接続には光ファイバーケーブルを使用します。[4]

メモ

1 マルチチャンネルアナログ入力を再生するには入力を **DVD5.1ch** 入力に切り換える必要があります（36 ページ）。
2 すでにテレビの接続に **TV/SAT** 入力を使用している場合は、他の入力に接続してください。
3 チューナー機器に S ビデオ映像出力端子があるときは、**S-VIDEO TV/SAT IN** 端子に接続することでより良い映像をお楽しみいただくことができます。D ビデオ映像出力端子があるときも同様です。詳しくは「D4ビデオ映像端子を使用する」（19 ページ）をご覧ください。
4 チューナー機器に同軸デジタル音声出力端子しかない場合は、同軸デジタルケーブルを使って本機の COAX1 または 2 端子に接続することができます。この際、本機の入力設定で同軸デジタル入力端子の設定を行う必要があります。詳しくは「入力に関する設定 (IN ASSIG.)」（45 ページ）をご覧ください。

オーディオ機器の接続

アナログ音声機器(カセットデッキなど)を該当の端子に接続してください。録音機器の場合は、本機の4つの端子(AUDIO IN L/R、AUDIO OUT L/R)への接続が必要です。[1]

再生のみの機器の場合は、AUDIO IN L/R に接続するだけです。

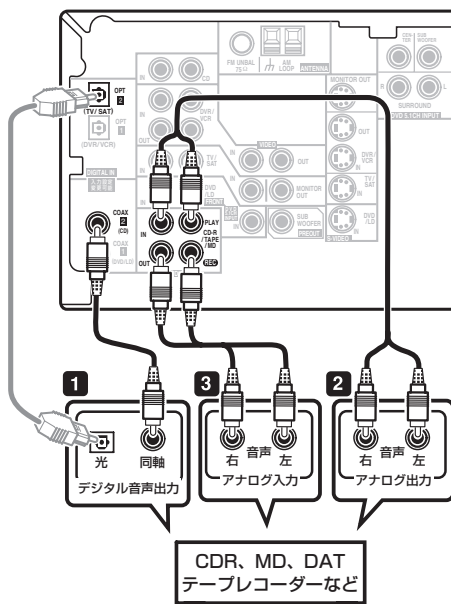
1 オーディオ機器にデジタル出力があるときは、本機のデジタル入力と接続する。

右の接続例では同軸デジタルケーブルを使用して **COAX 2(CD)** 端子に接続しています。

2 必要であれば、オーディオ機器のアナログ音声出力から本機の使用していない音声入力に接続する。

デジタル出力のないオーディオ機器を接続する場合や、デジタル機器から録音したいときは、オーディオコードで接続します。

3 録音機器と接続する場合は、本機のアナログ音声出力(REC)と録音機器のアナログ音声入力を接続する。

右の接続例ではオーディオコードを使用して CD-R/TAPE/MD アナログ出力端子(REC)にアナログ接続しています。

WMA9 Pro デコーダーについて

本機は WMA9 Pro デコーダーを内蔵していますので、WMA9 Pro 対応プレーヤーと同軸または光ファイバーケーブルでデジタル接続することによって、WMA9 Pro でエンコードされた音声を本機でデコードして再生することができます。WMA9 Pro 対応プレーヤーとしては、DVD プレーヤー、セットトップボックスなどが考えられます。ただし、それらの機器の同軸または光出力端子から WMA9 Pro 音声を出力できる場合のみ、本機でデコードして再生することができます。

メモ

1(MD デッキなどの)デジタル機器とアナログ機器の間で録音する場合は、デジタル機器についてもアナログ音声接続が必要です。

WindowsMedia® 及び Windows ロゴは米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

DVD レコーダーやビデオデッキとの接続

本機は DVD レコーダーやビデオデッキなどのデジタル／アナログ録画機器とデジタルでもアナログでも接続することができます。

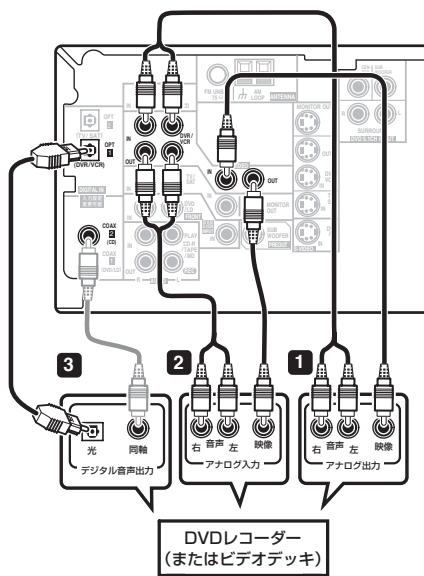
1 録画機器の音声／映像出力と本機の DVR/VCR AUDIO/VIDEO IN端子を接続する。[1]

音声の接続にオーディオコード、映像の接続に一般的なビデオコードを使用します。

2 録画機器の音声／映像入力と本機の DVR/VCR AUDIO/VIDEO OUT 端子を接続する。[2]

音声の接続にオーディオコード、映像の接続に一般的なビデオコードを使用します。

3 録画機器にデジタル音声出力がある場合は、本機のデジタル入力と接続する。

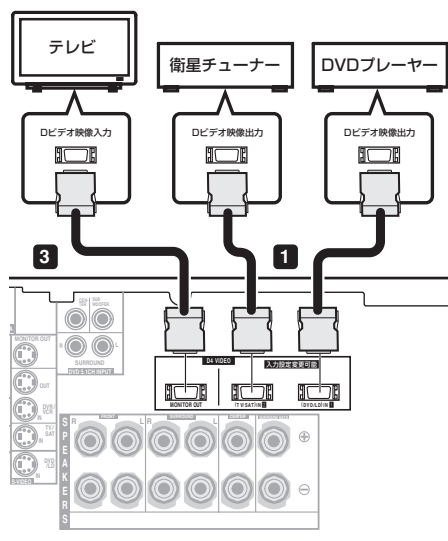
右の接続例では光ファイバーケーブルを使用して **OPT1（DVR/VCR）** 端子に接続しています。[3]

メモ

1 DVD レコーダーなどに S ビデオ映像出力端子があるときは、**S-VIDEO DVR/VCR IN** 端子に接続することでより良い映像をお楽しみいただくことができます。D ビデオ映像出力端子があるときも同様です。詳しくは「D4ビデオ映像端子を使用する」（上記）をご覧ください。

2 **S-VIDEO DVR/VCR OUT**端子に接続することでより良い映像をお楽しみいただくことができます。

3 映像機器に同軸デジタル音声出力しかない場合は、同軸デジタルケーブルを使って本機の COAX1 または 2 端子に接続することができます。その際、本機の入力設定で同軸デジタル入力端子の設定を行う必要があります。詳しくは「入力に関する設定 (IN ASSIG.)」(45 ページ）をご覧ください。

D4 ビデオ映像端子を使用する

D4 ビデオ映像端子での接続はコンポジット接続に比べ高画質な映像を伝送します。入力機器とテレビの両方に D 端子がある場合、プログレッシブスキャン映像やチラツキのない高品位な映像をお楽しみいただけます。詳しくはテレビと入力機器の取扱説明書をご覧になり、それらがプログレッシブスキャン映像に対応しているか確認してください。

重要

D4 VIDEO 端子で入力機器と接続して高画質な映像を楽しむには、テレビを本機の **D4 VIDEO MONITOR OUT** 端子に接続する必要があります。

1 入力機器の D ビデオ映像出力と本機の D4 VIDEO IN 端子を接続する。

D 端子ケーブルを使用します。

2 D4 VIDEO IN 端子に機器を接続した場合は、入力の設定が必要なことがあります。

次の初期値のとおりに接続していない場合のみ設定が必要です。

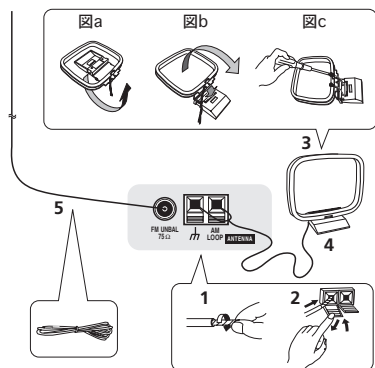
- **D.TR1（D4 VIDEO IN 1）－ DVD/LD**
- **D.TR2（D4 VIDEO IN 2）－ TV/SAT**

詳しくは「D4 映像入力の設定」（46 ページ）をご覧ください。

3 本機の D4 VIDEO MONITOR OUT 端子と、テレビの D ビデオ映像入力を接続する。

D 端子ケーブルを使用します。

アンテナの接続

AM ループアンテナと FM アンテナを下図のように接続します。受信状態と音質を良好にするには外部アンテナの接続をお勧めします（下記の「外部アンテナの接続」をご覧ください）。

1 AM アンテナコードの両端の被覆をはがす。

2 端子のツメを開いて AM アンテナコードの両端を確実に差し込み、ツメを閉じて固定する。

3 AM ループアンテナを組み立てる。

AM ループアンテナは図 a ～ b をご覧になり組み立ててください。

- 壁などに取り付けるときは、受信状態の良い場所にネジや画びょうなどを使って取り付けます（図 c）。

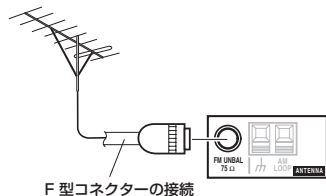
4 受信状態が良くて平らな場所に AM アンテナを設置する。

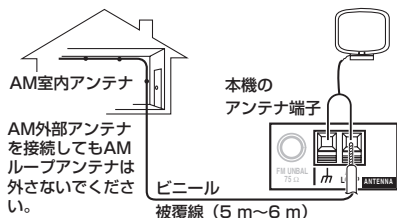
5 AM ループアンテナと同様に FM アンテナを接続する。

FM アンテナは受信状態を良好にするために、壁や窓枠などに沿って縦方向に充分に伸ばしてください。

外部アンテナの接続

FM の受信感度を上げるために

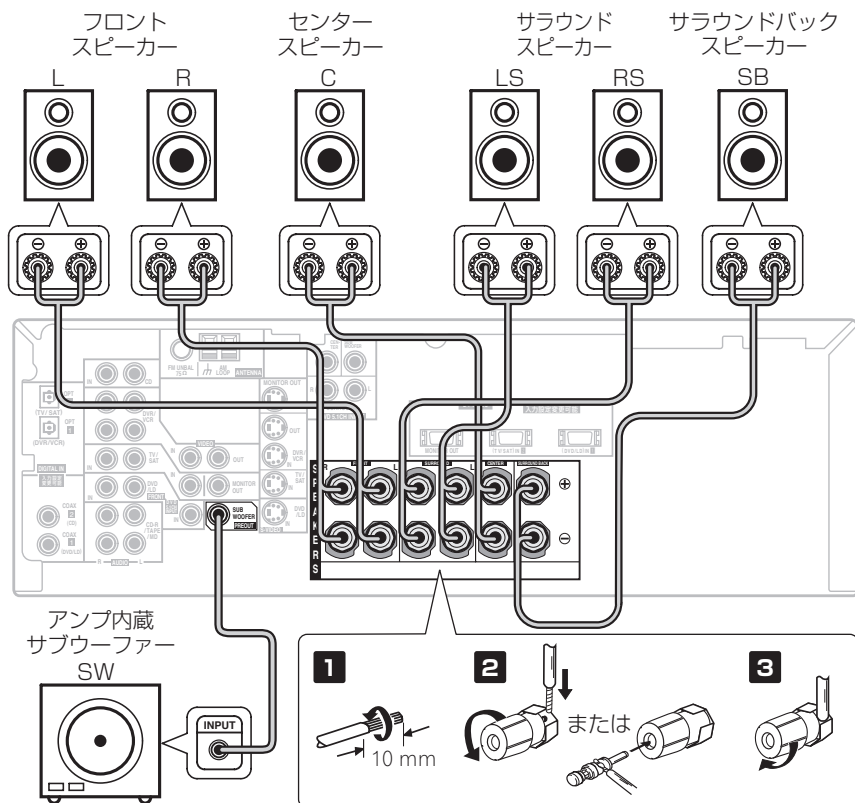
F 型コネクターを使って、屋外用 FM アンテナを接続します。

AM の受信感度を上げるために

5 m ～ 6 m の長さの AM 外部アンテナ（ビニール被覆線）を AM LOOP 端子に接続して、同時に付属の AM ループアンテナも接続したままにします。屋外に設置するときは、受信感度を上げるためアンテナを水平に伸ばして使用してください。

スピーカーの接続

スピーカーの接続方法は状況に合わせてさまざまですが、以下に示すのはサブウーファーを含む 7 本のスピーカーを接続した一般的な例です。以下に示す方法を参考に、お持ちのスピーカーの数に合わせて接続してください。本機は最低 2 本のスピーカー（図のフロントスピーカー）が接続されていれば音を再生できますが、少なくとも 3 本、できれば全 7 本のスピーカーを接続することをお勧めします。なお、サブウーファーを使用しないときは、フロントスピーカーの設定を「**LARGE**」に設定してください（43 ページの「スピーカーの設定」をご覧ください）。

スピーカー端子について、右側にあるスピーカーは **R** 端子に、左側にあるスピーカーは **L** 端子につなぎます。また、必ずスピーカーの極性 **(+/–)** と本機の極性 **(+/–)** を合わせてください。

- スピーカーは、インピーダンスが 6 Ω ～ 16 Ω のスピーカーをご使用ください。

すべての接続が終わってから、最後に電源コードをコンセントに差し込んでください。

1 スピーカーコードの先端をねじる。

2 スピーカー端子を緩め、スピーカーコードを差し込む。

- スピーカー端子にはバナナプラグも接続できます。

3 スピーカー端子をしめる。

スピーカー端子について

スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじり、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がリアパネルに接触したり、芯線どうしが接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

接続には市販のスピーカーコードとオーディオコードをご使用ください。音質をよくするためには、より高品質なスピーカーコードをご使用ください。

注意

スピーカー端子には非常に高い電圧が出力されます。感電の危険を避けるため、スピーカーを接続する前に必ず電源コードを抜いてください。

スピーカー配置について

スピーカーは通常、製品設計により設置する場所が特定されています。床に置くフロア型もあれば、スタンドを使って設置することで最高の音質を発揮するタイプもあります。また、壁の近くに配置すべきものもあれば、壁から離して配置すべきものもあります。スピーカー配置で音質に影響のあるポイントを以下にまとめましたので、使用されるスピーカーの配置について、指示記述があればあわせて参考にしてください。

- フロント左／右スピーカーは、それぞれテレビから等距離になるように配置してください。
- スピーカーをテレビの近くに置くときは、防磁型のスピーカーをお勧めします。防磁型でないと磁力による干渉で、テレビの電源を入れたときに画面が変色したり色ずれなどを起こすことがあります。そのようなときはスピーカーをテレビから離してください。
- センタースピーカーは、テレビの音をより自然に再生するために、テレビの上か下に配置してください。また視聴位置からセンタースピーカーの距離は、フロントスピーカーの距離よりも近くならないようにしてください。
- サラウンドスピーカーやサラウンドバックスピーカーは、視聴位置での耳の高さから60 cm ～ 90 cm 上方に、少し下向きに配置してください。それぞれの左／右スピーカーが向き合わないように置きます。
- 最適なサラウンド再生のために、以下の「スピーカー配置図」を参考にして各スピーカーを設置してください。安全と音質向上のため、しっかりと安定させて設置してください。

注意

- センタースピーカーをテレビの上に置くときは必ず適切な方法で固定してください。地震などの振動によりスピーカーが落下して人がけがをしたり、物を破損する原因となります。

スピーカー配置図

下の図は 6.1 チャンネルのスピーカーの設置例です。

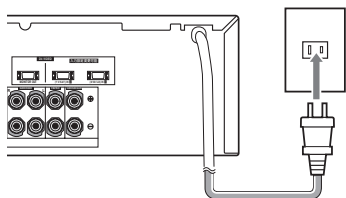
電源コードの接続

すべての接続が終了したら電源コードを家庭用電源コンセント（AC 100 V）に接続します。[1]

予備コンセント（AC OUTLET）の接続

接続した機器の消費電力100 Wを超えないようにしてください。

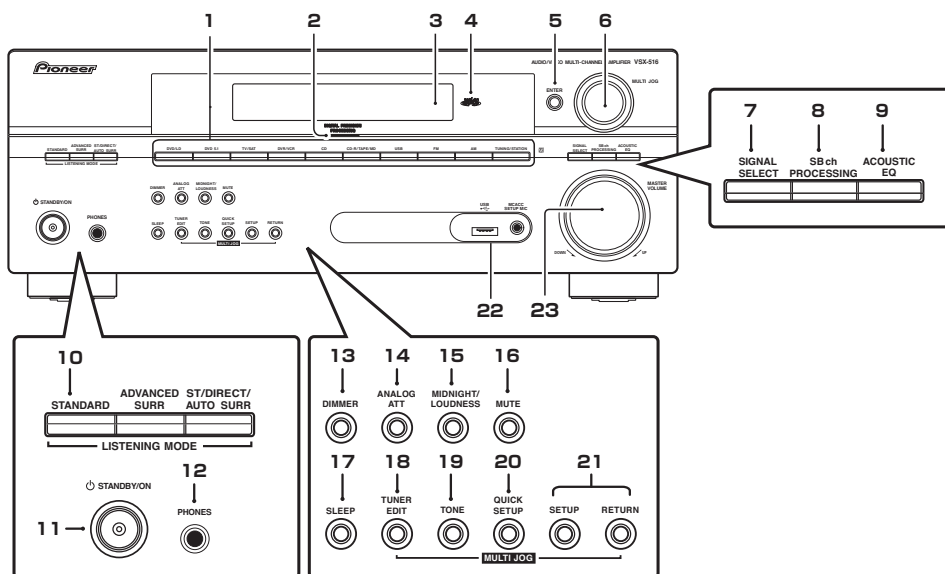
注意

- 消費電力がパネルに表示されているワット数を超えるような電気器具（暖房、アイロン、テレビ、トースター、ドライヤーなど）は絶対に接続しないでください。機器の故障や火災の恐れがあります。
- 表示されている消費電力が本機のパネル表示値より少なくてもテレビ、サブウーファー、パワーアンプ、は接続しないでください。電源を入れたときや大きな音で再生する場合に大きな電流が流れる場合があります。

メモ

1 旅行などで長期間本機を使用しないときは、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。

第 5 章：

各部の名称

フロントパネル

1 入力ファンクション切り換えボタン

再生する入力機器を選びます。

2 DIGITAL PRECISION PROCESSING インジケーター

デジタル信号を処理しているときに点灯します。

3 ディスプレイ

「ディスプレイ」（26 ページ）をご覧ください。

4 MCACC インジケーター

アコースティックキャリブレーション EQ を ON にしているときに点灯します（40 ページ）。

5 ENTER

6 MULTI JOG ダイヤル

さまざまな設定やメニューを選択します。

7 SIGNAL SELECT

入力信号を選択します（34 ページ）。

8 SBch PROCESSING

サラウンドバックチャンネルモード（34 ページ）や、バーチャルサラウンドバックモード（35 ページ）を選択します。

9 ACOUSTIC EQ

アコースティックキャリブレーション EQ を選択します（40 ページ）。

10 LISTENING MODE ボタン

STANDARD

サラウンド再生のためのデコードを行います。また ▯▯ Pro Logic II と Neo：6 のデコード方法を切り換えます。

ADVANCED SURR

ADVANCED SURROUND モードを切り換えます。

ST/DIRECT/AUTO SURR

ダイレクト再生とステレオ再生を切り換えます。ダイレクト再生時はトーンコントロールやチャンネルレベルの設定が無効になり、入力音声の音源を忠実に再生します（33 ページ）。また、オートサラウンドモードの選択もします（31 ページの「オートサラウンド再生」をご覧ください）。

11 ⏻ STANDBY/ON

12 ヘッドホン端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンが接続されているときは、スピーカーからは音が出ません。

13 DIMMER

フロントパネル表示部の明るさを切り換えます。

14 ANALOG ATT

アナログ入力時の音声の歪みを低減します。

15 MIDNIGHT/LOUDNESS

ミッドナイト機能および、ラウドネス機能を選択します（36 ページ）。

16 MUTE

消音します。

17 SLEEP

スリープタイマーを設定します。設定時間は 30 分、60 分、90 分の中から選びます。設定後にもう一度押すことで、タイマーの経過時間を確認することができます。

18 TUNER EDIT

放送局を記憶したり、名前をつけます（48 〜 49 ページ）。

19 TONE

トーンコントロールを選択します。低音／高音の調整は **MULTI JOG** ダイヤルを使用します（36 ページ）。

20 QUICK SETUP

「簡単設定（QUICK SETUP)」（9 ページ）をご覧ください。

21 システムセットアップ用ボタン

SETUP

MULTI JOG ダイヤルとともにシステムセットアップ設定を行います（37 ページ）。

RETURN

システムセットアップの設定で、１つ前の画面に戻ります。

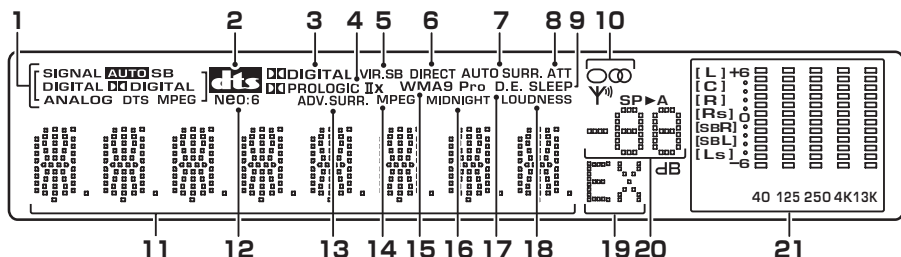
22 USB 入力端子

マスストレージクラスに対応した USB フラッシュメモリーを接続して再生することができます（51 ページ）。

MCACC SETUP MIC 端子

付属のセットアップ用マイクを接続します。

23 MASTER VOLUME ダイヤル

ディスプレイ

1 SIGNAL SELECT インジケーター

再生している機器の入力信号の種類が点灯します。

AUTO

入力信号の切り換えが **AUTO** のときに点灯します（34 ページ）。

SB

入力信号からサラウンドバックチャンネル信号を検出したとき点灯します。

DIGITAL

デジタル音声信号が入力されているときに点灯します。

DD DIGITAL

ドルビーデジタル信号が入力されているときに点灯します。

DTS

DTS 信号が入力されているときに点灯します。

ANALOG

アナログ信号が入力されているときに点灯します。

MPEG

MPEG-2 AAC 信号が入力されているときに点灯します。

2 dts

DTS マルチチャンネル信号をデコードしているときに点灯します。

3 DD DIGITAL

Dolby Digital マルチチャンネル信号をデコードしているときに点灯します。

4 DD PRO LOGIC IIx

ドルビープロロジック II 処理またはドルビープロロジック IIx 処理をしているときに点灯します。詳しくは「サラウンドの再生」（31 ページ）をご覧ください。

5 VIR.SB

バーチャルサラウンドバック処理時に点灯します（35 ページ）。

6 DIRECT

ダイレクト再生時に点灯します。ダイレクト再生時はトーンコントロールなどの機能が無効になり、入力音声の音源を忠実に再生します（33 ページ）。

7 AUTO SURR.

オートサラウンドモード選択時に点灯します。詳しくは「オートサラウンド再生」（31 ページ）をご覧ください。

8 ATT

インプットアッテネーター機能が選ばれているときに点灯します。

9 SLEEP

スリープタイマー設定時に点灯します（25 ページ）。

10 チューナーインジケーター

Ÿ

ラジオ放送を受信しているときに点灯します。

（ MONO インジケーター）

MPX ボタンを押してモノラル受信に設定しているときに点灯します（48 ページ）。

（ STEREO インジケーター）

ステレオで受信しているときに点灯します。

11 キャラクター表示部

12 Neo:6

Neo:6 処理しているときに点灯します。

13 ADV.SURR.（アドバンスドサラウンド ）

アドバンスドサラウンドモードに設定されているときに点灯します（32 ページ）。

14 MPEG

MPEG-2 AAC マルチチャンネル信号をデコードしているときに点灯します。

15 WMA9 Pro

WMA9 Pro 信号をデコードしているときに点灯します。

16 MIDNIGHT

ミッドナイト機能を使用しているときに点灯します（36 ページ）。

17 D.E.

ダイアログエンハンスメント機能を使用しているときに点灯します（36 ページ）。

18 LOUDNESS

ラウドネス機能を使用しているときに点灯します（36 ページ）。

19 EX

Dolby Digital Surround EX 信号をデコードしているときに点灯します。

20 音量表示

21 アコースティックキャリブレーション EQ の表示

各チャンネルの周波数特性を表示します。詳しくは「補正カーブを確認する」（41 ページ）をご覧ください。また、サウンドレトリバー機能が ON のときは **[L]** と **[R]** が点灯します（36 ページ）。

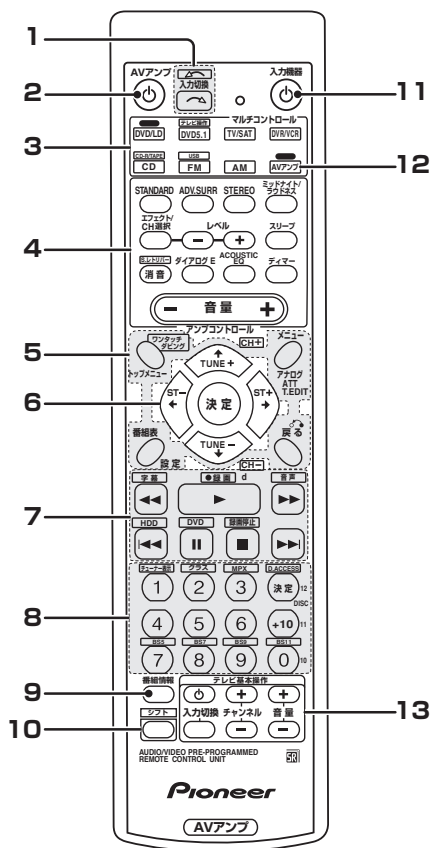
MPEG-2 AAC

MPEG-2 オーディオの標準方式の一つで、BS デジタルや地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。高圧縮率ながら高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236
5848391	4,914,701
5,291,557	5,235,671
5,451,954	07/640,550
5 400 433	5,579,430
5,222,189	08/678,666
5,357,594	98/03037
5 752 225	97/02875
5,394,473	97/02874
5,583,962	98/03036
5,274,740	5,227,788
5,633,981	5,285,498
5,481,614	5,490,170
5,592,584	5,264,846
5,781,888	5,268,685
08/039,478	5,375,189
08/211,547	5,581,654
5,703,999	05-183,988
08/557,046	5,548,574
08/894,844	08/506,729
5,299,238	08/576,495
5,299,239	5,717,821
5,299,240	08/392,756
5,197,087	

リモコン

1 入力切換

再生する入力機器を選びます（**シフト**ボタンを押しながら使用すると、逆の順番で選択できます）。

2 AV アンプ ⏻

本機の電源を入／切します。

3 マルチコントロールボタン

操作したい機器を選びます。

「テレビ操作」、「CD-R/TAPE」、「USB」を選ぶときは**シフト**を押しながらボタンを押します。

4 アンプコントロールボタン

STANDARD

STANDARD モードを選択し、Pro Logic IIx や Neo:6 の各モードを切り換えます（31 ページ）。

ADV.SURR

アドバンスドサラウンドモードを切り換えます（32 ページ）。

STEREO

ステレオ再生とダイレクト再生（33 ページ）、およびオートサラウンド再生（31 ページ）の各再生モードを切り換えます。

ミッドナイト／ラウドネス

ミッドナイト機能とラウドネス機能を選択します（36 ページ）。

エフェクト／ CH 選択

チャンネルを選択し、**レベル+/–**ボタンを使用してチャンネルレベルの調整をします。また、ADVANCED SURROUND モードの効果を調整したり（32 ページ）、Dolby Pro Logic IIx Music モードや Neo:6 モードの設定項目を調整します。その際は**レベル+/–** ボタンも使用します。

レベル+/–

エフェクト／ CH 選択ボタンと組み合わせて各種効果やレベルなどを調整します。

スリープ

スリープタイマーを設定します。設定時間は 30 分、60 分、90 分の中から選びます。設定後に**スリープ**ボタンを押すことでタイマーの経過時間を確認することができます。

消音

消音します。もう一度押すと解除されます。

ダイアログ E

ダイアログエンハンスメント機能を選択します（36 ページ）。

ACOUSTIC EQ

アコースティックキャリブレーション EQ 設定を選択します（40 ページ）。

ディマー

フロントパネル表示部の明るさを 4 段階で切り換えます。

S. レトリバー（シフト＋消音）

MP3 などの 2ch の圧縮音声を再生する際、音の密度感、抑揚感を向上させて再生します（36 ページ）。

音量+/–

音量を調節します。

5 チューナー／他機器操作／設定ボタン

以下のボタン操作は**マルチコントロール**ボタンで操作する機器を選択したあとに操作できます。

ワンタッチダビング（シフト＋トップメニュー）

DVD レコーダーで、DVD から HDD へ、HDD から DVD へワンタッチでダビングします。

トップメニュー

DVD ディスクのトップメニューを表示します。

番組表

衛星放送などの番組表を表示します。

設定

本機のシステムセットアップになります。

戻る

本機のシステムセットアップで 1 つ前の画面に戻ります。

メニュー

DVD やテレビなどのメニュー画面を表示します。

アナログ ATT

インプットアッテネーターを ON/OFF します。

T.EDIT

チューナー操作で、放送局を記憶させたり、名前をつけたりします。

6 ⬆⬇⬅➡（TUNE/ST +/–）/ 決定

本機のシステムセットアップ、または各種メニュー操作に使用します。また、**TUNE +/–** はラジオの放送局を合わせるために、**ST +/–** は記憶した放送局の呼び出しに使用します。

また、**シフト**を押しながら ⬆⬇ を押すと、**CH +/–**ボタンとして使用することができます。

7 他機器操作ボタン

►、■ などのボタン操作はマルチコントロールで操作する機器を選択してから行います。

以下の DVD または DVD レコーダーの操作はシフトを押しながら行います。

字幕

ディスクに収録された字幕を選びます。

音声

ディスクに収録された音声を選びます。

録画

DVD またはハードディスクに録画します。

録画停止

録画を停止します。

HDD/DVD

DVD/HDD レコーダーで、DVD とハードディスクの操作を切り換えます。

8 数字ボタン／チューナーボタン

数字ボタンは、チューナー操作で周波数を入力したり、CD や DVD などのトラック番号などを選択します。

決定（DISC）ボタンは、入力されたテレビのチャンネルなどを決定します。また、CD チェンジャーなどではディスクを選択します。

以下のチューナーの操作は**シフト**を押しながら行います。

チューナー表示

ディスプレイに表示されている内容を切り換えます。

クラス

放送局を記憶する 3 つのクラスを切り換えます。

MPX

FM 放送の受信でステレオとモノラルを切り換えます。受信する電波が弱いときにモノラルに切り換えると音声が聴き取りやすくなります。

D.ACCESS

数字ボタンを使って周波数を直接入力するときに使用します。

9 番組情報

衛星放送などで、番組情報を表示します。

10 シフト

四角で囲まれたボタン（たとえば S.レトリバー など）は**シフト**ボタンを押しながら操作します。

11 入力機器 ⏻

本機に接続した他機器の電源を入／切します。

12 AV アンプ

リモコンを本機の操作モードに切り換えます。システムセットアップを行うときに使用します。

13 テレビ基本操作

マルチコントロールの**テレビ操作**ボタンに割り当てられたテレビを操作します。

TV ⏻

テレビの電源を入／切します。

入力切換

テレビの映像入力を切り換えます。

チャンネル+/–

チャンネルを切り換えます。

音量+/–

テレビの音量を調節します。

第 6 章：

機器の再生

重要

- PCM 88.2 kHz / 96 kHz や DTS 96 kHz (24 bit)、WMA9 Pro などの音声信号が入力された場合、選択することができない機能があります。

オートサラウンド再生

AUTO SURROUND モードは、本機のさまざまな音声再生モードのなかで最も簡単に最適な再生方式を選択します。再生している音声信号を本機が自動で検出して、マルチチャンネルやステレオなど最適な再生方法を選択します。[1]

- **再生中に、STEREO を押す。**

フロントパネル表示部に **AUTOSURR.** と表示されるまで、繰り返し押してください。次にこのモードが自動選択したデコード名称または音声フォーマット名称が表示されます。どのフォーマットが選ばれたかは、フロントパネルのデジタルフォーマットインジケーターを確認してください（26 ページ）。

サラウンドの再生

本機は、すべての音声をサラウンド再生することができます。ただし、スピーカーの設定や入力信号の種類によって、選択できるサラウンド再生の種類は異なります。

サラウンドバックスピーカーを接続しているときは、「サラウンドバックチャンネルを使う」（34 ページ）もご覧ください。

- **再生中に、STANDARD を押す。**

Dolby Digital や DTS、ドルビーサラウンド圧縮された信号については、適切なデコード形式が自動的に選ばれて、表示部に名称が表示されます。[2]

ステレオ 2ch 音声信号のときは、**STANDARD** ボタンを押して以下のモードを選択できます。

- **Pro Logic IIx MOVIE** －最大 6.1ch サラウンドで映画に適しています。
- **Pro Logic IIx MUSIC**[3] －最大 6.1 ch サラウンドで音楽に適しています。
- **Pro Logic IIx GAME** －最大 6.1ch サラウンドでゲームに適しています。
- **Pro LOGIC** － 4.1ch サラウンドです（サラウンドスピーカーからの音声はモノラルです）。
- **Neo:6 CINEMA** － 6.1ch サラウンドで映画に適しています。

メモ

1 · ステレオ 2ch の（マトリックス）サラウンドフォーマットは、Neo:6 CINEMA または Pro Logic IIx MOVIE でデコードされます（詳しくは「サラウンドの再生」（上記）をご覧ください）。
· AUTO SURROUND モードは、ヘッドホンを接続したときや、DVD 5.1 入力を選択したときには設定が解除されます。
2 サラウンドバックチャンネルモード（34 ページ）が OFF、またはスピーカーの設定でサラウンドバックスピーカーが NO になっている場合、Pro Logic IIx は Pro Logic II（5.1ch サラウンド）になります。
3 Pro Logic IIx MUSIC モードでステレオ 2ch 音声を聴いている場合、**C WIDTH**、**DIMEN.**、**PNRM.** の 3 つの項目を調整できます。詳しくは「サラウンド効果の設定」（32 ページ）をご覧ください。

- **Neo:6 MUSIC**[1] － 6.1ch サラウンドで音楽に適しています。

サラウンドバックスピーカーを接続していて **SB ON**[2] が選ばれているときにマルチチャンネル音声信号を入力すると、入力信号の種類によって以下のモードを選択できます。

- **DD Pro Logic IIx MUSIC** －上記を参照
- **Dolby Digital EX** － 5.1 ch 信号からサラウンドバック音声を作り出して 6.1ch サラウンド再生します（ドルビーデジタルサラウンド EX のようにデコードします）。
- **DTS-ES** － DTS 圧縮信号で 6.1 ch サラウンド再生します。

ADVANCED SURROUND モードの効果を使う

ADVANCED SURROUND モードでは、音にさまざまなサラウンド効果を加えます。お好みに応じて以下のモードを選んでみてください。[3]

• ADV. SURR を押して、アドバンスドサラウンドモードを選択する。

- **ADV. MOVIE** －映画鑑賞に適したモードです。
- **ADV. MUSIC** －音楽鑑賞に適したモードです。
- **TV SURR.** －モノラル／ステレオ音声のテレビ放送などをサラウンド再生します。
- **SPORTS** －スポーツ番組に適したモードです。
- **ADV. GAME** －テレビゲームに適したモードです。
- **EXPANDED** －ステレオ 2ch 音声をマルチチャンネルのサラウンド音声に変えて再生します。[4]
- **6-STEREO** －ステレオ 2ch 音声をマルチチャンネル音声にして、すべてのスピーカーを使って再生します。
- **VIR. SURR.** －フロントスピーカーとサブウーファーで仮想のサラウンド再生をします。
- **PHONESUR.** － ヘッドホンで聴いているとき、サラウンド効果を与えます。

サラウンド効果の設定

サラウンド効果の設定で調整できる項目を以下に説明します。

1 エフェクト／ CH 選択を繰り返し押して設定したい項目を選ぶ。

本機の設定や選択されているモードによっては項目が表示されないことがあります。表の下の注記をご確認ください。

2 レベル＋/–ボタンを使って設定する。

各項目で調整できる内容は次ページの表のとおりです。

3 エフェクト／ CH 選択をもう一度押して、他の設定に移る。

メモ

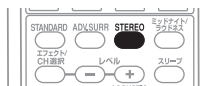
1 Neo:6 MUSIC モードでステレオ 2ch 音声を聴いている場合、C.IMAGE を調整できます。詳しくは「サラウンド効果の設定」（上記）をご覧ください。
2 サラウンドバックチャンネルモードが ON で Dolby Digital マルチチャンネル信号を再生中は、Dolby Digital EX または Dolby Pro Logic IIx MUSIC のみ選択できます。サラウンドバックチャンネルモードについて、詳しくは「サラウンドバックチャンネルを使う」（34 ページ）をご覧ください。
3 ・ヘッドホンを接続しているときに ADV.SURR を押した場合は、自動的に PHONESUR. に切り換わります。
・入力信号の種類や選択したリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーから音が出ない場合があります。詳しくは「サラウンドバックチャンネルを使う」（34 ページ）をご覧ください。
・ADVANCED SURROUND モードを選択しているときは EFFECT 設定を調整して効果のレベルを調整することができます。詳しくは「サラウンド効果の設定」（上記）をご覧ください。
4 ドルビーサラウンドや 2ch 収録されているソースに効果的です。STANDARD モードよりも広がりのある音場を実現します。

設定項目	内容	備考
C WIDTH [a] （センタースピーカーを使用しているときのみ有効です）	センターチャンネルの音をフロント左／右スピーカーに振り分けて、音の調和をもたらします。0 はセンタースピーカーからのみの出力で、7 はセンターチャンネルの音声すべてを左右のフロントスピーカーに振り分けます。	0 ～ 7 初期値：**3**
DIMEN.[a]	リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整することで広がりのある音場を創り出すことができます。+3 は前方の音場が強くなり、–3 は後方の音場が強くなります。	–3 ～ +3 初期値：**0**
PNRM.[a]	前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。	**OFF** ON
C. IMAGE [b] （センタースピーカーを使用しているときのみ有効です）	ボーカルの音などセンターチャンネルから出力される音をフロント左／右スピーカーに振り分けて、より広がりをもたらします。0 はセンターチャンネルの音声がフロント左／右スピーカーからも出力されて、10 はセンターチャンネルの音声が主にセンタースピーカーから出力されます。	0 ～ 10 初期値：**3**
EFFECT	ADVANCED SURROUND モードを選んだときの効果レベルを設定します。（各モードで別々に設定することができます。）	10 ～ 90 初期値：**70** （6-STEREO のみ 90）

a ⅮⅮPro Logic II(x)MUSICモードでステレオ2ch音声を入力しているときのみ使用できます。
b Neo:6 MUSIC モードでステレオ 2ch 音声を入力しているときのみ使用できます。

ステレオ再生

STEREO または DIRECT を選択した場合、すべての信号を 2ch（設定によってはサブウーファーからも出力し、最大 2.1ch）で再生します。

Dolby Digital、DTS および WMA9 Pro などのマルチチャンネル信号はステレオ音声にダウンミックスされます。

• 再生中に STEREO を押してステレオ再生にする。

押すたびに次のように切り換わります。

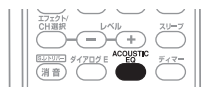
- **STEREO** – システムセットアップやミッドナイト／ラウドネス機能、トーンコントロールなどが反映されたステレオ再生を行います。
- **DIRECT** – すべての設定やシステムセットアップの内容は無効となり、入力信号を加工せずに忠実にステレオ再生します。[1]
- **AUTO SURR.** – 「オートサラウンド再生」（31 ページ）をご覧ください。

アコースティックキャリブレーション EQ（周波数特性の補正）の選択

- 工場出荷時の設定：**EQ OFF**
  （Auto MCACC またはアコースティックキャリブレーション EQ の自動設定を行ったときは自動的に ALL CH に設定されます）

「サラウンドの自動設定」（10 ページ）や「アコースティックキャリブレーション EQ の自動設定」（40 ページ）で設定された周波数特性の補正の種類を選びます。アコースティックキャリブレーション EQ について、詳しくはそれぞれのページをご覧ください。

メモ

1 **DIRECT** モードのときに、ミッドナイト／ラウドネス機能、ダイアログエンハンスメント、サウンドレトリバー機能、トーンコントロールのいずれかを設定すると、自動的に **STEREO** モードに切り換わります。

• 再生中に ACOUSTIC EQ を押して補正タイプを選択する。

押すたびに次のように切り換わります。

- **ALL CH** －スピーカーシステム全体をフラットに補正した周波数特性です。
- **F. ALIGN** － スピーカーシステム全体をフロントチャンネルの周波数特性に合わせます。
- **CUSTOM1/2** － 上記 2 つの補正タイプをお好みに調整した周波数特性です。
- **EQ OFF** － 補正を行いません。

ALL CH、F. ALIGN、CUSTOM1/2 のときはフロントパネルの MCACC インジケーターが点灯します。[1]

入力信号の選択

- 工場出荷時の設定：**AUTO**

入力信号の選択には、デジタル接続とアナログ接続の両方が必要です。[2]

• フロントパネルの SIGNAL SELECT を押して、接続している機器の入力信号を選択する。

押すたびに次のように切り換わります。

- **AUTO** － デジタル信号が入力されると、自動的に DIGITAL になります。それ以外の場合は ANALOG になります。
- **ANALOG** － アナログ入力を選択します。
- **DIGITAL** － デジタル入力を選択します。

DIGITAL または AUTO に設定した場合、Dolby Digital 信号が入力されると Dolby Digital が点灯します。また DTS 信号が入力されると DTS が点灯します。

サラウンドバックチャンネルを使う

- 工場出荷時の設定：**SB ON**

SBch PROCESSING とは、サラウンドバックスピーカーを接続しているときに、サラウンドバック ch 音声の処理を切り換え、6.1ch 再生か 5.1ch 再生かを変更できる機能です。[3]

次ページの表は再生する信号の種類によってサラウンドバックチャンネル音声を創り出すかどうかを示しています（●印がある場合にサラウンドバックスピーカーから音声が出力されます）。

• フロントパネルの SBch PROCESSING を押してサラウンドバックチャンネルモードを設定する。

押すたびに次のように切り換わります。

- **SB ON** － 常にサラウンドバック ch へのデコード処理技術を付加するため、6.1ch 再生でお楽しみいただけるモードです。
- **SB AUTO** － 入力信号の種類と「6.1ch 再生検出信号」を検出し、サラウンドバック ch へのデコード処理技術を自動選択することで、再生チャンネル数を切り換えます。最もソフトに忠実な再生となります。

メモ

1 ・DVD 5.1 入力のときや、WMA9 Pro 信号を入力しているときは使用できません。また、ヘッドホンを接続しているときは効果がありません。
　・リスニングモードが DIRECT のときにアコースティックキャリブレーション EQ を選択すると、リスニングモードは自動的に STEREO に切り換わります。
2 ・本機で再生できるデジタル信号の形式は、Dolby Digital、PCM (32 kHz～ 96 kHz) 、DTS 、MPEG-2 AAC および WMA9 Pro です。その他のデジタル信号のときは、**ANALOG** を選択してください。
　・ANALOG を選択した状態で DTS 対応の LD プレーヤーや CD プレーヤーを再生すると、デジタルノイズが発生することがあります。この場合、入力信号は DIGITAL を選択してください。
　・DVD プレーヤーによっては DTS 信号を出力しないなど、再生できるデジタル信号に制限があります。詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
3 ・ヘッドホンを接続しているときや、STEREO/DIRECT モード、オートサラウンドモード、サラウンドバックスピーカーを「NO」に設定しているとき（「スピーカーの設定」（43 ページ））は、サラウンドバックチャンネル音声は再生されません。
　・DTS 96 kHz/24 bit および PCM96 kHz 音声再生時はサラウンドバックチャンネル音声は再生されません。
　・入力信号、リスニングモードの種類や組み合わせによって、SBch PROCESSING の処理が異なります。詳しくは「リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧」（62 ページ）をご覧ください。

- **SB OFF** – サラウンドバック ch へのデコード処理は行わず、最大 5.1ch での再生となります。

バーチャルサラウンドバックモードの選択

サラウンドバックスピーカーを接続していないときに、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すモードです。ON、AUTO、OFF のいずれかに設定します。入力信号の種類やリスニングモードの選択によっては効果が出ない場合があります 。[1]

表では、再生する信号の種類によって仮想のサラウンドバックチャンネルを創るかを示しています (● 印のときに、仮想サラウンドバックチャンネルの音が出ます)。

• フロントパネルの SBch PROCESSING を押して、バーチャルサラウンドバックモードを設定する。

押すたびに次のように切り換わります。

- **VSB ON** – リスニングモードによって、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出します。
- **VSB AUTO** – 6.1ch 再生検出信号を含んだソースやリスニングモードによって、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出します。
- **VSB OFF** – 仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出しません。

信号の種類	サラウンドバックチャンネルモード／バーチャルサラウンドバックモード	STANDARD モード				ADVANCED SURROUND モード
		マルチチャンネル信号	ステレオ信号			
			Pro LOGIC IIx	Pro LOGIC	Neo:6	
6.1ch 再生検出信号を含むマルチチャンネルエンコードされた Dolby Digital EX/DTS-ES のような信号	ON	●				●a
	AUTO	●				●a
マルチチャンネルエンコードされた Dolby Digital/DTS のような信号	ON	●				●a
	AUTO					●a
2ch ステレオエンコードされた Dolby Digital/DTS のような信号またはデジタル 2ch ステレオ信号	ON		●	●a,b	●	●a
	AUTO		●c		●	●a
アナログ 2ch(ステレオ) 信号	ON		●	●b	●	●
	AUTO		●c		●	●

a WMA9 Pro フォーマットを除きます。
b バーチャルサラウンドバックモードの時のみ有効です。
c バーチャルサラウンドバックモードの時は無効になります。

メモ

1 ・ヘッドホンを接続しているときや、STEREO/DIRECT モード、サラウンドスピーカーを「NO」に設定しているとき（「スピーカーの設定」（43 ページ））は、バーチャルサラウンドバックモードを選択することはできません。
・サラウンドチャンネルの効果がないソースでは、バーチャルサラウンドバックモードの効果を得ることはできません。

ミッドナイト機能／ラウドネス機能を使う

ミッドナイト機能は、サラウンド音声の映画を小音量で見るときに効果的です。音量によってその効果は調整されます。

ラウドネス機能は、音楽を聴くときに小音量でも低域、高域のレベルを自然に調整して聴きやすくします。

• ミッドナイト／ラウドネスを押して、MIDNIGHT、LOUDNESS または M/L OFF を選択する。

ダイアログエンハンスメント機能を使う

- 工場出荷時の設定 : **OFF**

音に定位感を持たせることで映画／ドラマのセリフや音楽のボーカルをきわ立たせ、より聴き取りやすい音にします。

• ダイアログ E を押して、ダイアログエンハンスメント機能の ON 、OFF を選択する。

トーンコントロール機能を使う

再生している音の低音や高音を調整します。

1 フロントパネルの TONE を押して、低音（BASS）か高音（TREB）のどちらのトーンを調整するか選択する。[1]

押すたびに **BASS** と **TREB** が切り換わります。

2 MULTI JOG ダイヤルで調整する。

約 5 秒後に自動的に調整モードが終了します。

サウンドレトリバー機能を使う

MP3 などの圧縮音声は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。サウンドレトリバー機能では、DSP 処理によってその削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。[2]

• S. レトリバーを押して、サウンドレトリバー機能の ON/OFF を選択する。

他機器を再生する

1 再生したい機器の電源を入れる。

2 本機の電源を入れる。

3 再生したい機器の入力を選択する。

フロントパネルの**入力ファンクション切り換え**ボタンを使用します（リモコンは**マルチコントロール**）。

4 手順 1 の機器を再生する。

マルチチャンネルアナログ入力の再生

DVD 5.1CH INPUT 端子に接続した機器の各チャンネルの音声を、すべてアナログ処理のまま忠実に高 SN 比で再生します。再生するときは本機の DVD 5.1 入力を選択します。接続については「マルチチャンネルアナログ機器の接続」（16 ページ）をご覧ください。[3]

• DVD5.1 を押す。

マルチチャンネルアナログ入力の再生を切り換えるには、本体の**入力ファンクション切り換え**ボタンかリモコンの**マルチコントロール**ボタンを押して他の入力を選びます。

メモ

1 トーンコントロールは、STEREO 以外のリスニングモードやマルチチャンネルアナログ入力（DVD5.1）を選んでいるときは使用することができません。

2 サウンドレトリバー機能は 2ch の音声信号にのみ有効です。

3 マルチチャンネルアナログ入力の再生時は、音量とチャンネルレベルのみ調整することができ、すべてのリスニングモードとサラウンド機能は使用することができなくなります。

第 7 章:

システムセットアップ設定

システムセットアップで本機の設定をする

本機の詳細な設定のしかたを説明します。また、それぞれのスピーカーをお好みで調整する方法も説明します。

1 リモコンの AV アンプを押してから、設定ボタンを押す。

2 ⬆/⬇ ボタンを押して設定したいシステムセットアップ項目を選んで、決定を押す。

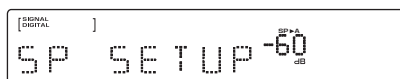
- **A. MCACC** – サラウンドの自動設定です。簡単に高精度な設定を行うことができます。詳しくは「サラウンドの自動設定」（10 ページ）をご覧ください。

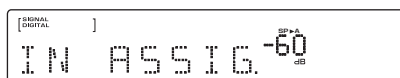
SIGNAL DIGITAL　A. MCACC　SP▶A -60 dB

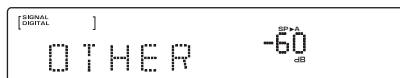
- **M. MCACC** – 詳細なサラウンドの設定やアコースティック EQ の設定を手動で調整することができます。詳しくは「手動 MCACC 設定 (M.MCACC)」（下記）をご覧ください。

SIGNAL DIGITAL　M. MCACC　SP▶A -60 dB

- **SP SETUP** – 接続しているスピーカーの大きさ、数、距離と全体的な音のバランスを設定します。詳しくは「聴感によるスピーカーの設定 (SP SETUP)」（42 ページ）をご覧ください。

SIGNAL DIGITAL　SP SETUP　SP▶A -60 dB

- **IN ASSIG.** – デジタル入力端子や D ビデオ映像入力端子に機器を接続してるときに設定します。詳しくは「入力に関する設定 (IN ASSIG.)」（45 ページ）をご覧ください。

SIGNAL DIGITAL　IN ASSIG.　SP▶A -60 dB

- **OTHER** – 本機の使用について、各種設定を変更します。詳しくは「その他の設定 (OTHER)」（46 ページ）をご覧ください。

SIGNAL DIGITAL　OTHER　SP▶A -60 dB

3 設定ボタンを押してシステムセットアップを終了する。

戻るボタンを数回押すことでもシステムセットアップを終了できます。

手動 MCACC 設定 (M.MCACC)

サラウンドの設定をより詳細に調整したいときは手動 MCACC でお好みに合わせた調整を行うことができます。ここでの手動設定を行う前に、「サラウンドの自動設定」（10 ページ）で Auto MCACC を行ってください。

ここで一度調整を行った場合、再度調整する必要はありません。ただし、スピーカーの位置を変更したり、新しいスピーカーに変更したときは再度調整してください。

 重要

- 手動 MCACC ではセットアップ用マイクが必要なものがあります。その場合は、マイクをフロントパネルに接続し、視聴位置で耳の高さになるよう設置します。詳しくは「サラウンドの自動設定」（10 ページ）をご覧ください。また、マイクを使った測定時の騒音や干渉について、詳しくは「Auto MCACC 設定時におけるその他の問題」（12 ページ）をご覧ください。
- サブウーファーを使用しているときは、電源を入れて音量を適度に上げておいてください。

1 システムセットアップ項目の中から「M. MCACC」を選択する。

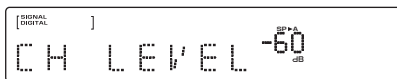
M. MCACC -60

システムセットアップ項目を表示するまでの手順は「システムセットアップで本機の設定をする」（37 ページ）をご覧ください。

2 ⬆/⬇ ボタンを押して調整したい設定項目を選んで、決定を押す。

以下の設定をはじめて行うときは、上から順番に項目を選択することをお勧めします。

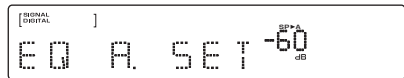
- **CH LEVEL** － スピーカーシステム全体の音のバランスを詳細に調整します。「スピーカー出力レベルの詳細な設定」（39 ページ）をご覧ください。

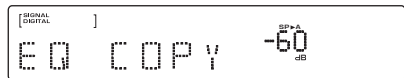
CH LEVEL -60

- **SP DISTN.** － 各スピーカーまでの距離を詳細に調整します。「スピーカーまでの距離の詳細な設定」（39 ページ）をご覧ください。

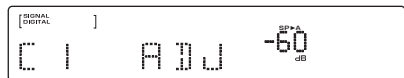
SP DISTN. -60

以下の 5 つの設定項目については、アコースティックキャリブレーション EQ に関する項目です。

- **EQ A. SET** － 部屋の音響特性を測定し、スピーカーシステム全体の周波数バランスを自動で調整します。「アコースティックキャリブレーション EQ の自動設定」（40 ページ）をご覧ください。

EQ A. SET -60

- **EQ COPY** － アコースティック EQ の内容を手動で調整するために設定内容を別に保存します。「補正カーブの保存」（40 ページ）をご覧ください。

EQ COPY -60

- **C1/C2 ADJ** － アコースティック EQ の内容を手動で詳細に調整します。「自動測定された補正カーブの手動調整」（41 ページ）をご覧ください。

C1 ADJ -60

- **EQ CHECK** － **ALL CH ADJ** や **F. ALIGN** で補正された設定値や手動調整した設定値をディスプレイで確認します。「補正カーブを確認する」（41 ページ）

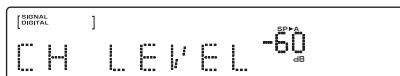
EQ CHECK -60

スピーカー出力レベルの詳細な設定

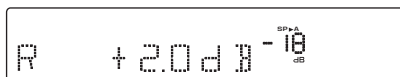
- 工場出荷時の設定：**0 dB**（すべてのスピーカー）

スピーカーシステム全体の音のバランスを適正に調整することで、より良いサラウンド効果をもたらします。「スピーカーの設定」（43 ページ）ではできないような詳細な調整を行うことができます。

1 M. MCACC の設定項目から「CH LEVEL」を選択する。

CH LEVEL -60 dB

音量が自動的に**－ 18 dB** まで上がり、大きな音でテストトーンが出力されます。フロント左スピーカーはスピーカーシステム全体の基準値となるため、固定されており調整することはできません。

2 ⬆/⬇ ボタンで調整したいスピーカーを選んで ⬅/➡ ボタンで出力レベルを調整する。

R +2.0dB -18 dB

基準となるスピーカーの音量と比較しながら、各スピーカーの出力レベルを－ 10 dB ～＋ 10 dB の範囲内で調整します。それぞれのテストトーンが同じ大きさに聞こえるよう調整します。

- 基準となるスピーカーは調整したいチャンネルに対して最適なスピーカーが選ばれます。

3 戻るを押して終了する。

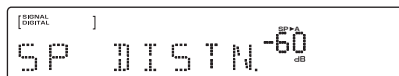
M. MCACC の設定画面に戻ります。

スピーカーまでの距離の詳細な設定

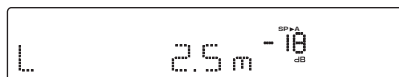
- 工場出荷時の設定：**3.0 m**（すべてのスピーカー）

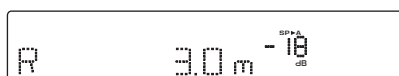
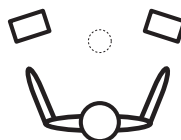
スピーカーまでの距離を設定することで、各スピーカーからの音が同時に視聴位置に届くようにします。音に定位感や移動感をもたらすために必要な設定で、「スピーカーの設定」（43ページ）よりも詳細な調整を行うことができます。

1 M. MCACC の設定項目から「SP DISTN.」を選択する。

SP DISTN. -60 dB

音量が自動的に**－ 18 dB** まで上がります。

2 ⬅/➡ ボタンでフロント左スピーカーまでの実測距離を入力して、決定を押す。

L 2.5m -18 dB

3 ⬆/⬇ ボタンで調整したいスピーカーを選んで、⬅/➡ ボタンで距離を調整する。

R 3.0m -18 dB

基準となるスピーカーからのテストトーンと比較して調整するスピーカーを測定します。2 つのスピーカーに対してリスニングポジションから下図のように向き、2 つのテストトーンの聞こえるポイントが真ん中になるように調整します。

すべてのスピーカーまでの距離を調整します。

- 基準となるスピーカーは調整したいチャンネルに対して最適なスピーカーが選ばれます。

4 戻るを押して終了する。

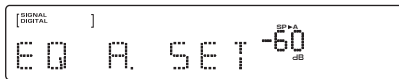
M. MCACCの設定画面に戻ります。

アコースティックキャリブレーションEQ

アコースティックキャリブレーション EQ は、視聴環境の周波数特性を補正するものです（サブウーファーについては補正しません）。部屋の音響特性を測定し周波数特性を均一化します。これにより各チャンネルの音のつながりが向上し、これまでにない実像感やリアルな移動感を再現します。ここでは、サラウンドの自動設定で調整された周波数特性をより詳細に調整します。

アコースティックキャリブレーション EQ の自動設定

「サラウンドの自動設定」（10 ページ）を行っているときは、すでに **ALL CH** と **F. ALIGN** は設定されていますので、ここでの設定は必要ありません。設定された内容を手動で調整したいときは「自動測定された補正カーブの手動調整」（41 ページ）をご覧ください。

1 M. MCACC の設定項目から「EQ A. SET」を選択する。

- セットアップ用マイクが接続されていることを確認してください。
- サブウーファーを接続しているときは、サブウーファーの電源が入っていて適度に音量が上がっていることを確認してください。
- マイクを使った測定時の騒音や干渉について、詳しくは「Auto MCACC 設定時におけるその他の問題」（12 ページ）をご覧ください。

2 MCACC の自動測定が終了するのまで待つ。

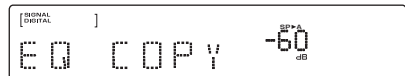
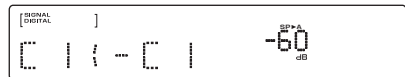
テストトーンが出力されて本機が測定を行い、自動的に周波数バランスが補正され、以下の設定が保存されます。

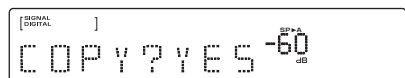
- **A.CH**（ALL CH ADJUST）－ 特定のスピーカー特性に合わせるのではなく、全チャンネルの周波数を均一にする設定
- **F.ALG**（FRONT ALIGN）－全チャンネルの周波数特性をフロントスピーカーの特性に合わせ込む設定（フロントチャンネルは補正されません）

自動測定が終わると、アコースティックキャリブレーション EQ の設定項目に戻ります。引き続き、以下の項目にお進みください。

補正カーブの保存

あらかじめ「サラウンドの自動設定」（10 ページ）または「アコースティックキャリブレーション EQ の自動設定」（上記）で測定された補正カーブに調整を加えたいときは、**A.CH** または **F. ALG** の補正カーブを「C1」または「C2」に保存する必要があります。

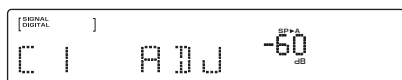
1 M. MCACC の設定項目から「EQ COPY」を選択する。

2 ⬆/⬇ ボタンで「C1」か「C2」のどちらに保存するかを選んで、⬅/➡ ボタンで保存したい補正カーブの種類を選ぶ。

- 「C1」に保存された補正カーブを「C2」に、「C2」に保存された補正カーブを「C1」に保存することもできます。
- **A.CH** と **F.ALG** の詳しい説明は「アコースティックキャリブレーション EQ の自動設定」（上記）をご覧ください。

3 ⬆/⬇ ボタンで「COPY? YES」を選んで、決定を押す。

補正カーブが保存されます。

⬅/➡ ボタンで「COPY?NO」を選ぶと、保存をキャンセルすることができます。

自動測定された補正カーブの手動調整

補正カーブに手動で調整を行う前に、「補正カーブの保存」（40 ページ）で自動測定された **A.CH** または **F. ALG** の補正カーブを「C1」または「C2」に保存する必要があります。

1 M. MCACC の設定項目から「C1 ADJ」または「C2 ADJ」を選択する。

「C1」に補正カーブを保存したときは「C1 ADJ」を、「C2」に補正カーブを保存したときは「C2 ADJ」を選びます。

2 ⬅/➡ ボタンでテストトーンの種類を選んで、決定を押す。

- **A. CH ADJ** – サブウーファーを除いた全スピーカーの周波数特性を均一化します。

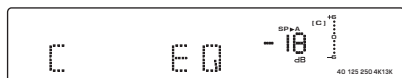
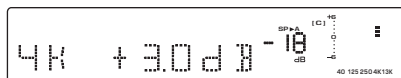
A.CH ADJ -60

- **F. ALG ADJ** – フロントスピーカーの特性に合わせて全スピーカーの周波数特性を補正します。フロント左スピーカーと調整するスピーカーとで交互にテストトーンが出力されます。

F.ALG ADJ -60

3 スピーカーと周波数帯域を選んで、EQ レベルを調整する。

⬅/➡ ボタンでスピーカーを選択します。

C EQ -18

⬆/⬇ ボタンで周波数帯域を選び、⬅/➡ ボタンで EQ レベルを調整します。1 つのスピーカーの調整が終了したら、⬆/⬇ ボタンでスピーカー選択のディスプレイにしたあと、⬅/➡ ボタンで次に調整したいスピーカーを選択します。

- **F. ALG ADJ** を選択したときはフロント左／右スピーカーの調整をすることはできません。
- ある帯域の周波数を極端に調整すると、表示部に「**OVER!**」と表示されることがあります。この場合は、「**OVER!**」が消えるまでさまざまな帯域のレベルを下げてください。

ヒント

ある周波数帯域のレベルを極端に調整すると、全体のチャンネルレベルバランスが変わってしまいます。そのようなときは **TRM** を選び、調整することで全体的なバランスを調整します。⬆/⬇ ボタンで **TRM** を選び、⬅/➡ ボタンで選択しているスピーカーの全体的なチャンネルレベルを調整します。

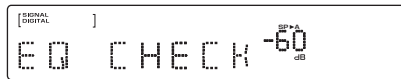
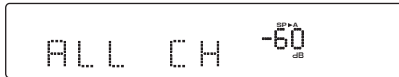
4 戻るを押して終了する。

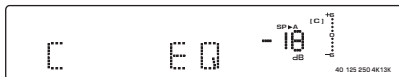
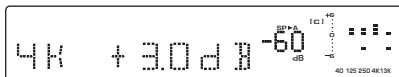
5 もう一度戻るを押して終了する。

M. MCACC の設定画面に戻ります。

補正カーブを確認する

「サラウンドの自動設定」（10 ページ）や「アコースティックキャリブレーション EQ の自動設定」（40 ページ）、「自動測定された補正カーブの手動調整」（上記）で測定された「ALL CH」「F. ALIGN」「C1」「C2」の各補正カーブを確認することができます。

1 M. MCACC の設定項目から「EQ CHECK」を選択する。

2 ⬅/➡ ボタンで補正カーブの種類を選んで、決定する。

- 再生中に行うと、補正カーブごとの音の違いを比較することができます。

3 ⬅/➡ ボタンで確認したいチャンネルを選ぶ。

4 ⬆/⬇ ボタンで各周波数帯域の詳細を確認する。

- 確認が終わり、別のチャンネルを確認するときは ⬆/⬇ ボタンでチャンネル選択の画面にしてから ⬅/➡ ボタンでチャンネルを選びます。

5 戻るを押して終了する。
M. MCACCの設定画面に戻ります。

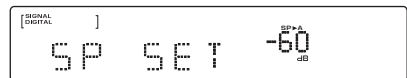
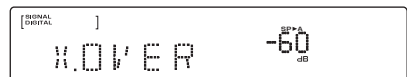
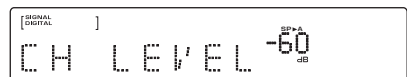
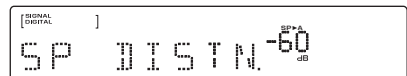
聴感によるスピーカーの設定 (SP SETUP)

「サラウンドの自動設定」（10 ページ）で Auto MCACC を行った場合はすでに設定されています。必要に応じてお好みで再設定できます。

1 システムセットアップ項目の中から「SP SETUP」を選択する。

システムセットアップ項目を表示するまでの手順は「システムセットアップで本機の設定をする」（37 ページ）をご覧ください。

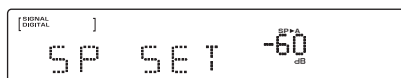
2 ⬆/⬇ ボタンを押して調整したい設定項目を選び、決定を押す。

- **SP SET** – スピーカーの接続本数や大きさ（低域再生能力）などを設定します。詳しくは「スピーカーの設定」（43 ページ）をご覧ください。

- **X.OVER** – 何 Hz 以下の低音域をサブウーファーなどで再生するかを設定します。詳しくは「クロスオーバー周波数の設定」（44 ページ）をご覧ください。

- **CH LEVEL** – スピーカーシステム全体の出力レベルを調整します。詳しくは「スピーカー出力レベルの設定」（44 ページ）をご覧ください。

- **SP DISTN.** – 視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定します。詳しくは「スピーカーまでの距離の設定」（44 ページ）をご覧ください。

3 それぞれの設定が終了したら戻るを押して終了する。

スピーカーの設定

スピーカーの大きさや本数を設定することで再生する音域を最適なチャンネルへ配分します。

1 SP SETUP の設定項目から「SP SET」を選択する。

SP SET -60

2 ⬆/⬇ ボタンを押して、設定したいスピーカーを選び、大きさを選択します。

F LARGE -60

以下の各スピーカーについて、⬅/➡ ボタンで接続の有り／無しや大きさを選択します。

- **F**（フロント）– 低音域の再生能力が高いスピーカーのときは **LARGE** を選びます。また、サブウーファーを使用しないときも **LARGE** を選びます。低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーのときは **SMALL** を選びます。[1]
- **C**（センター）– 低音域の再生能力が高いスピーカーのときは **LARGE** を選びます。低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーのときは **SMALL** を選びます。また、センタースピーカーを接続していないときは **NO** を選びます。このときセンタースピーカーの音は他のスピーカーから再生されます。
- **S**（サラウンド）– 低音域の再生能力が高いスピーカーのときは **LARGE** を選びます。低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーのときは **SMALL** を選びます。また、サラウンドスピーカーを接続していないときは **NO** を選びます。このときサラウンドスピーカーの音は他のスピーカーから再生されます。
- **SB**（サラウンドバック）– 低音域の再生能力が高いスピーカーのときは **LARGE** を選びます。低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーのときは **SMALL** を選びます。また、サラウンドバックスピーカーを接続していないときは **NO** を選びます。[2]
- **SW**（サブウーファー）– **SMALL** に設定されたスピーカーの低音域と **LFE** 信号（ドルビーデジタルや DTS 信号に含まれる超低域信号成分）をサブウーファーから再生するときは **YES** を選びます。サブウーファーから常に低音を再生したいときや、低音を強調したいときは **PLUS** を選びます（このとき、通常はフロントやセンタースピーカーで再生している低音域をサブウーファーでも再生します）。また、サブウーファーを接続していないときは **NO** を選びます（このとき低音域は他の **LARGE** に設定されたスピーカーで再生されます）。[3]

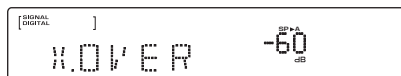
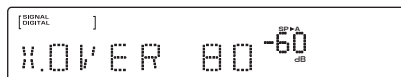
メモ

1 フロントスピーカーが **SMALL** に設定されているときは、サブウーファーは自動的に **YES** に設定されます。またフロントスピーカーが **SMALL** に設定されているときは、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーで **LARGE** を選択することはできません。このとき、各スピーカーチャンネルの低音域はサブウーファーで再生されます。
2 サラウンドスピーカーが **NO** に設定されているときは、サラウンドバックスピーカーは自動的に **NO** に設定されます。
3 サブウーファーを **PLUS** に設定した場合、サブウーファーの低音域とフロントスピーカーの低音域が打ち消し合ってしまい、十分な低音の効果が発揮されないことがあります。このようなときは、スピーカーの設置場所や向きなどを変えてみてください。それでも解消されないときは実際に音を出しながらサブウーファーを **YES** にしたり、フロントスピーカーを **SMALL** にしてみて比較し、最適な設定にしてください。

クロスオーバー周波数の設定

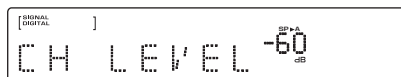
- 工場出荷時の設定： **100Hz**

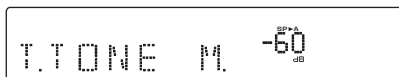
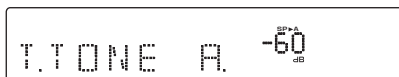
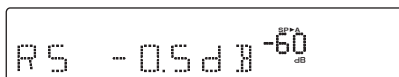
「スピーカーの設定」で **SMALL** に設定されたスピーカーがあるとき、何 Hz 以下の低音域を **LARGE** に設定されたスピーカーまたはサブウーファーで再生するかを設定します。[1] また、LFE 信号についても同様に何 Hz 以下の低音域を再生するかが設定されます。

1 SP SETUP の設定項目から「X.OVER」を選択する。

2 ⇦/⇨ ボタンでクロスオーバー周波数を選ぶ。

ここで選択された周波数以下の低音域は、サブウーファーまたは LARGE に設定されたスピーカーから再生されます。

スピーカー出力レベルの設定

各スピーカーの出力レベルを設定することで、スピーカーシステム全体のバランスを調整します。

1 SP SETUP の設定項目から「CH LEVEL」を選択する。

2 ⇦/⇨ ボタンを押して、設定方法を選んで決定を押す。[2]

- **T.TONE M.** – テストトーンを出力するスピーカーを手動で切り換えて調整します。
- **T.TONE A.** – テストトーンを出力するスピーカーが自動で切り換わります。

3 ⇦/⇨ ボタンで各スピーカーの出力レベルを調整する。

T.TONE M. を選んだときは、⇧/⇩ ボタンでスピーカーを選択します。**T.TONE A.** を選んだときは、以下の順番でテストトーンが出力されます。

L → C → R → RS → SB → LS → SW

テストトーンを聞きながら、各スピーカーの出力レベルを調整してください。[3]

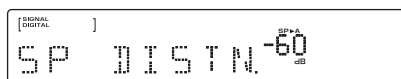
スピーカーまでの距離の設定

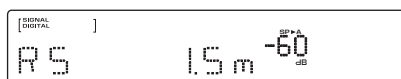
視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することで、各チャンネルの遅延時間が自動的に算出され、最適なサラウンド効果を得ることができます。

メモ

1 スピーカーの大きさなどの設定については、「スピーカーの設定」（43 ページ）をご覧ください。
2 音量が自動的に– 18 dB まで上がり、大きな音でテストトーンが出力されます。
3 ・音圧計を使用する場合は、視聴位置で測定して、各スピーカーの出力レベルを 75dB SPL（C- ウェイト／スローモード）に調整してください。
・サブウーファーからのテストトーンは小音量です。テストトーンでの調整ではなく実際にソフトを再生しながら出力レベルを調整することをお勧めします。
・スピーカーの出力レベルは、リモコンの**エフェクト／ CH 選択** と**レベル +/–** ボタンで調整することもできます。**DVD 5.1ch** 入力は独立してスピーカーの出力レベルを設定することができます。

1 SP SETUP の選択項目から「SP DISTN.」を選択する。

SIGNAL DIGITAL
SP DISTN. -60 dB

2 ⬆/⬇ ボタンで設定するスピーカーを選んで ⬅/➡ ボタンで各スピーカーまでの距離を設定する。

SIGNAL DIGITAL
RS 1.5m -60 dB

0.1 m 間隔で調整できます。

入力に関する設定 (IN ASSIG.)

本機のデジタル入力端子や D4 映像入力端子に接続した機器が各端子の工場出荷時の設定と異なるときに使用します。

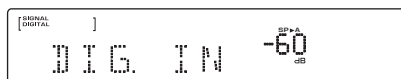
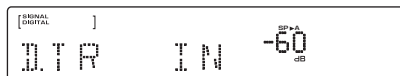
1 システムセットアップ項目から「IN ASSIG.」を選択する。

SIGNAL DIGITAL
IN ASSIG. -60 dB

システムセットアップ項目を表示するまでの手順は「システムセットアップで本機の設定をする」（37 ページ）をご覧ください。

2 ⬆/⬇ ボタンを押して、設定したい項目を選び、決定を押す。

DIG.IN －「デジタル入力の設定」（下記）をご覧ください。

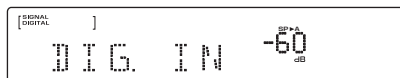
SIGNAL DIGITAL
DIG. IN -60 dB

D.TR IN －「D4 映像入力の設定」（46 ページ）をご覧ください。

3 それぞれの設定が終了したら戻るを押して終了する。

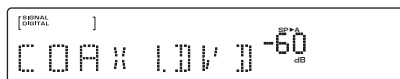
デジタル入力の設定

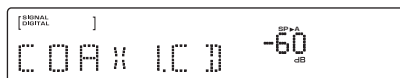
- 工場出荷時の設定：

  COAX1 （同軸）－ **DVD**
  COAX2 （同軸）－ **CD**
  OPT1 （光）－ **DVR**
  OPT2 （光）－ **TV**

デジタル入力端子の接続で、上記の工場出荷時の設定と異なる機器を接続したときのみ、ここでの設定が必要になります。この設定は、本機のどの端子に何の機器を接続したかを設定することで、入力名と機器名称が合うようにします。

1 IN ASSIG. の設定項目から「DIG. IN」を選択する。

2 ⬆/⬇ ボタンで、変更したいデジタル入力端子を選ぶ。

SIGNAL DIGITAL
COAX 1.DVD -60 dB

- リアパネルのデジタル入力端子ごとに、番号が記されています。

3 その入力端子に接続した機器を適切な機器に変更する。

- ⬅/➡ ボタンと**決定**を使って **DVD**、**TV**、**CD**、**CDR**、**DVR** または **OFF** から選択します。

- デジタル入力端子に割り当てられている機器（**DVD** など）について、他のデジタル入力端子に同じ機器が新たに割り当てられると、前に設定されていた入力は、自動的に **OFF** に切り換わります。

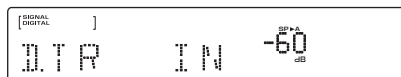
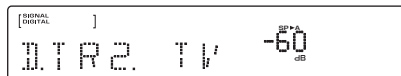
D4 映像入力の設定

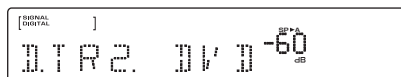
- 工場出荷時の設定：

D.TR1（D4 VIDEO IN [1]）－ DVD

D.TR2（D4 VIDEO IN [2]）－ TV

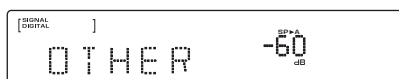
D4 映像入力の接続で、上記の工場出荷時の設定と異なる機器を接続したときのみ、ここでの設定が必要になります。D4 ビデオ映像入力について詳しくは「D4 ビデオ映像端子を使用する」（19 ページ）をご覧ください。

1 IN ASSIG. の設定項目から「D.TR IN」を選択する。

2 ⬆/⬇ ボタンで、変更したい D4 映像入力端子を選ぶ。

- リアパネルの D4 映像入力端子ごとに、番号が記されています。

3 その入力端子に接続した機器を適切な機器名に変更する。

- ⬅/➡ ボタンと**決定**を使って **DVD**、**TV**、**DVR** または **OFF** から選択します。
- D4 映像入力に接続した機器の音声についても、ここで選んだ入力と同じ入力の音声入力端子に接続してください。
- 本機の D4 映像入力に機器を接続したときは、必ずテレビも **D4 VIDEO MONITOR OUT** 端子に接続してください。

その他の設定（OTHER）

各種設定を変更できます。

1 システムセットアップ項目から「OTHER」を選択する。

システムセットアップ項目を表示するまでの手順は「システムセットアップで本機の設定をする」（37 ページ）をご覧ください。

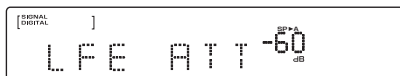
2 ⬆/⬇ ボタンを押して、設定したい項目を選び、決定を押す。

本機の各種設定を変更できます。

- **DRC** － Dolby Digital や DTS 音声のダイナミックレンジの圧縮量を選択します（詳しくは「ダイナミックレンジコントロールの設定」（47 ページ）をご覧ください）。

- **DUALMONO** － デュアルモノラル音声のディスクで再生する音声を選択します。（詳しくは「デュアルモノラル音声の設定」（47 ページ）をご覧ください）。

- **LFE ATT** – LFE 信号の減衰量（アッテネートレベル）を選択します。（詳しくは「LFE アッテネーターの設定」（下記）をご覧ください。）

LFE ATT -60 dB

3 ⇦/⇨ ボタンでそれぞれの設定を調整し、戻るを押して設定を終了する。

ダイナミックレンジコントロールの設定

- 工場出荷時の設定 : **OFF**

この設定は、ドルビーデジタルや DTS で収録された映画の音声について、ダイナミックレンジ[1] の圧縮量を選択します。音量を下げてサラウンドを楽しむときでも、微少な音が聞き取りやすくなります。

- **MAX** – ダイナミックレンジを最大に圧縮します（大きな音を減少させて、小さな音を増大させます）。
- **MID** – ダイナミックレンジを多少圧縮します。
- **OFF** – ダイナミックレンジを圧縮しません（音量が大きいときは、OFF にすることをお勧めします）。

デュアルモノラル音声の設定

- 工場出荷時の設定 : **CH1**

モノラルの音声チャンネルを 2 つ持つデジタル信号をデュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときに再生する音声を選択することができます。

デュアルモノラル信号はあまり多くはありませんが、BS デジタル放送（MPEG-2 AAC）のモノラルの二カ国語放送や音声多重放送で使用されています。[2]

- **CH2** – チャンネル 2 の音声のみを再生します。
- **CH1 CH2** – 両方のチャンネルの音声をフロントスピーカーから再生します。
- **CH1** – チャンネル 1 の音声のみを再生します。

LFE アッテネーターの設定

- 工場出荷時の設定 : **ATT 0 dB**

ドルビーデジタルや DTS 音声には、LFE（超低域音声成分）が含まれていることがあります。LFE レベルが大きくて、スピーカーからの音声に歪みが生じるときは、LFE レベルをアッテネート（減衰）します。

- **LFEATT** ** – LFE 音声を出力しません。
- **LFEATT10** – LFE レベルを 10 dB アッテネート（減衰）します。
- **LFEATT0** – 収録されているレベルのまま再生します（通常はこの設定をお勧めします）。

メモ

1 ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音から大きな音までを正しく（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとはこのダイナミックレンジを圧縮する機能です。
2 DVD レコーダーで録画された二カ国語放送などはドルビーデジタル音声か DTS 音声をデュアルモノラルモードで録画されたもののみ有効です。

第 8 章：

ラジオチューナーの使用

ラジオ放送を聞く

放送局を受信するには自動選局（オートチューニング）と手動選局（マニュアルチューニング）の方法があります。一度受信した放送局は記憶させて、呼び出すこともできます。詳しくは「放送局を記憶する」（下記）をご覧ください。

1 AM または FM ボタンを押して聞きたいバンドを選ぶ。

2 放送局を受信する。
以下の 3 つの方法で選局できます。

オートチューニング
TUNE +/– を押して、周波数が動きはじめたら指を離します。自動で放送局を探し、受信すると止まります。次の放送局を探すときはもう一度押してください。

マニュアルチューニング
TUNE +/– を押すたびに 1 ステップずつ周波数を移動します。

ハイスピードチューニング
TUNE +/– を押し続けると、高速で周波数を移動します。受信したい放送局の周波数でボタンから指を離してください。

FM の受信で Y))) または ⚭ インジケーターが点灯せず受信状態が悪いときは、**MPX** ボタンを押してモノラル受信に切り換えます。受信感度がよくなり放送が聞きやすくなります。

放送局のダイレクト選局

受信したい放送局の周波数がわかっているときは、リモコンの**数字**ボタンで周波数を入力して選局することができます。

1 AM または FM ボタンを押して聞きたいバンドを選ぶ。

2 D.ACCESS ボタン（シフト＋決定）を押す。

3 数字ボタンで放送局の周波数を入力する。
たとえば、「FM 76.00 MHz」を選ぶには、**数字**ボタンの **7**、**6**、**0**、**0** を押します。

入力の途中で数字を間違えたときは **D.ACCESS** を 2 回押して、入力をはじめからやり直してください。

放送局を記憶する

本機では、よく聞く放送局を A、B、C の 3 つのクラスに各 10 局、合計 30 局まで記憶することができます。[1]

1 AM または FM ボタンを押してリモコンをチューナーモードにする。

2 記憶させたい放送局を受信する。
詳しくは「ラジオ放送を聞く」（上記）をご覧ください。

3 T. EDIT ボタンを押す。
ディスプレイに **ST. MEMORY** と表示され、クラスが点滅します。

メモ
1 FM 放送を記憶したときは、MPX の設定も記憶されます。

4　クラス（シフト +2）を押して記憶させるクラスを選んでから、ST +/– ボタンを押して記憶させるステーション番号を選ぶ。
ステーションの選択にはフロントパネルの **MULTI JOG** も使用できます。

5　決定を押す。
決定を押すと、保存先のクラスとステーション番号の点滅が止まり、本機に放送局が記憶されます。

記憶した放送局に名前をつける

選局しやすいように、記憶した放送局に名前をつけることができます。

1　AM または FM ボタンを押してリモコンをチューナーモードにする。

2　名前をつけたい放送局を選ぶ。
選局方法については、「記憶した放送局を呼び出す」をご覧ください。

3　T.EDIT を押す 。
表示部に **ST. NAME** が表示され、最初の文字の位置でカーソルが点滅します。

4　名前を入力する。
名前は 4 文字まで入力できます。

- フロントパネルの **MULTI JOG** またはリモコンの **ST +/–** ボタンで文字を選びます。
- **決定**を押すと次の文字へカーソルが移動します。文字を入力せず空白のままにするには、スペースを入力してください。
- 最後の文字を選んだあとに**決定**を押すと、名前が記憶されます。

ヒント

- 入力した名前を消去するには、上記の手順 4 ですべてスペースを入力してください。
- 放送局に名前をつけると、**チューナー表示**（**シフト +1**）を押すことで、その放送局の周波数表示と名前表示を切り換えることができます。

記憶した放送局を呼び出す

放送局を呼び出すには、その前に放送局を記憶する必要があります。放送局を記憶していない場合は、「放送局を記憶する」（48 ページ）をご覧ください。

1　AM または FM ボタンを押して、呼び出したいバンドを選ぶ。

2　クラス（シフト +2）ボタンを押して呼び出したい放送局のクラスを選ぶ。
押すたびにクラス A 、B、C が切り換わります。

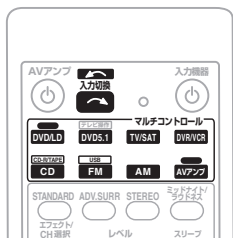
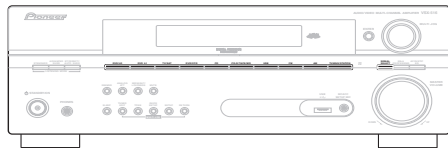
3　ST +/– を 押して呼び出したい放送局のステーション番号を選ぶ。
数字ボタンでステーション番号を選ぶこともできます。

第 9 章：

機器の録音／録画

音声と映像の録音／録画について

本機に接続されている機器（CD プレーヤーやテレビなど）や本機のラジオチューナーなどを本機を通して録音／録画することができます。[1]

アナログ音声信号のデジタル録音およびデジタル音声信号のアナログ録音を行うことはできませんので、録音する際は必ずデジタル、アナログの接続を合わせてください。詳しくは「接続」（13 ページ）をご覧ください。

1　録音／録画したい入力機器を選ぶ。

リモコンは**入力切換**ボタンまたは**マルチコントロール**ボタンで、本体は**入力ファンクション切り換え**ボタンで選びます。

「CD-R/TAPE」、「USB」入力は**シフト**を押しながら選びます。

2　必要に応じて入力信号を選ぶ。

SIGNAL SELECT を押して、再生する機器に合った音声入力信号を選択します。詳しくは「入力信号の選択」（34 ページ）をご覧ください。

3　録音／録画したい入力機器の準備をする。

ラジオを受信したり、CD、ビデオ、DVD を入れるなどの準備をします。

4　録音／録画機器の準備をする。

録音／録画用のカセットテープ、MD ディスク 、ビデオテープなどを録音／録画する機器に入れて、録音レベルを設定します。[2]

録音レベルについてわからない場合は、録音／録画機器の取扱説明書をご覧ください。ビデオデッキなどでは通常、録音レベルは自動設定されます。

5　録音／録画を開始してから、機器を再生する。

メモ

1 映像を録画する場合、入力機器と録画機器の接続ケーブルを同じタイプにする必要があります。たとえば、入力機器と本機をビデオコードで接続し、録画機器と本機を D 端子ケーブルでつないだ場合は録画することができません。詳しくは「DVD レコーダーやビデオデッキとの接続」（18 ページ）をご覧ください。

2 本機の音量、出力レベル、トーンコントロール (低音／高音)、ラウドネス やサラウンドの設定などは、録音には反映されません。

第 10 章：

USB メモリーの再生

USB メモリーを再生する

お手持ちの USB メモリーを本機に接続することで、USB メモリーに記録されている音楽ファイルを本機で再生することができます。本機ではステレオまたはモノラル音声を再生することができます。[1]

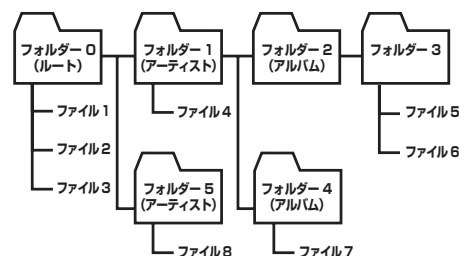
1 USB ボタン（シフト+ FM）を押す。

2 本機の USB 端子に USB メモリーを接続する。

USB 端子はフロントパネルにあります。

3 リモコンの再生ボタン（▶）を押して再生を開始する。

ファイルが複数のフォルダーに記録されている場合は、以下の例のような順番で再生します。このとき同じフォルダー内では、ファイル名に従って再生されます。

例）以下のようなフォルダー構成の場合、フォルダー 0 から 5 の順番でファイル 1 から 8 の順に再生します。

USB メモリーを抜くときは、本機の電源を切ってから抜いてください。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
❚❚	一時停止／一時停止解除します。
◀◀	早戻しします（2 回押すことで速度が増します）。
▶▶	早送りします（2 回押すことで速度が増します）。
❙◀◀	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
▶▶❙	次のトラックの先頭に進みます。

 重要

USB ERR と表示されたときは以下の内容をご確認のうえ、下記の操作を行ってみてください。

USB ERR	内容
USB ERR 1	USB メモリーの消費電力が大きすぎます。
USB ERR 2	対応していない USB 機器が接続されています。
USB ERR 3	「故障かな？と思ったら」（60 ページ）をご確認ください。

- 本機の電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。

メモ

1・本機で再生できる USB メモリーのファイルは、WMA、MP3、MPEG-4 AAC のいずれかで、著作権保護のかかっていない音楽ファイルのみです。
・本機とパソコンを USB ケーブルで接続して音楽ファイルを再生することはできません。本機が対応している USB メモリーは、外付ハードディスクや携帯フラッシュメモリー、デジタルオーディオ再生機（FAT 16、FAT 32 のフォーマットに対応）などのUSB マスストレージクラスに属する機器です。
・本機ではすべてのUSB メモリーの再生、および電源の供給を保証できない場合があります。また、本機と接続したことで、USB メモリーのファイルが万が一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。
・容量の大きいUSB メモリーを接続したときは、読み込みに多少時間がかかることがあります。
・本機は USB ハブには対応していません。

- 本機の電源を切ってから USB メモリーを抜き、再度 USB メモリーを接続して電源を入れてみてください。
- DVD/LD などの他の入力に切り換えてから、再度 USB 入力にしてみてください。
- AC アダプターが付属されている USB メモリーをお使いの場合は、AC アダプターを接続して使用してみてください。

上記の操作を行っても USB ERR が表示されるときは、USB メモリーが本機に対応していないということになります。

再生できる圧縮ファイルについて

本機では標準的なサンプリング周波数 / ビットレートで圧縮されたフォーマットの多くに対応しておりますが、一部対応していないフォーマットもあります。本機で対応している圧縮フォーマットは以下のとおりです。

- **MP3**（MPEG-1/2/2.5 オーディオレイヤー 3）：

サンプリングレートは 8 kHz ～ 48 kHz、ビットレートは 8 kbps ～ 320 kbps（128 kbps 以上を推奨）[1]、ファイル拡張子は **.mp3** に対応しています。

- **WMA**（Windows Media Audio）：

サンプリングレートは 32 kHz/44.1 kHz、ビットレートは 32 kbps ～ 192 kbps（128 kbps 以上を推奨）[1]、ファイル拡張子は **.wma** に対応しています（WMA9 Pro やロスレスエンコーディング（loss-less encoding）には対応しておりません）。

- **AAC**（MPEG-4 Advanced Audio Coding）：

サンプリングレートは 11.025 kHz ～ 48 kHz、ビットレートは 16 kbps ～ 320 kbps（128 kbps 以上を推奨）[1]、ファイル拡張子は **.m4a** に対応しています（アップルロスレスエンコーディング（Apple loss-less encoding）には対応しておりません）。

重要

- 著作権保護のかかったファイルは再生することができません。

MPEG-4 AAC について

AAC とは、「Advanced Audio Coding 」の略で、MPEG-2 、MPEG-4 で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。AAC データは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。本機では、iTunes® によってエンコードされた、拡張子が「.m4a」の AAC ファイルを再生することができます。ただし、著作権保護のかかったファイルやエンコードする iTunes のバージョンによっては再生できないことがあります。

iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Computer,Inc. の商標です。

WMA について

外装箱に印刷された、Windows Media® のロゴは、本機が WMA データの再生に対応していることを示しています。

WMA とは、「Windows Media Audio 」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。本機では Windows Media Player によってエンコードされた、拡張子が「.wma」の WMA ファイルを再生することができます。ただし、著作権保護のかかったファイルやエンコードする Windows Media Player のバージョンによっては再生できないことがあります。

Microsoft、Windows Media 、Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

メモ

1 可変ビットレート（VBR）で圧縮されたファイルも再生できますが、経過時間が正しく表示されないことがあります。

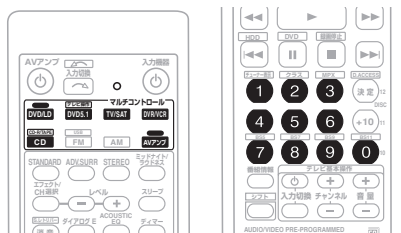
第 11 章：
他機器のリモコン操作

他機器を操作するためのリモコン設定

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器を操作することができます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出すだけで操作できるようになります。

ただし、プリセットコードを呼び出しても、すべての操作ができなかったり、まったく操作できないこともあります。[1]

- リモコンの設定中に **AV アンプ**ボタンを押すと設定はキャンセルされます。
- リモコンの設定中に 1 分間何も操作がないと自動的に設定はキャンセルされます。

プリセットコードを呼び出す

1 AV アンプボタンを押しながら数字ボタンの 1 を押す。

リモコンの LED ランプが点滅します。

2 操作したい機器のマルチコントロールボタンを押す。[2]

リモコンの LED ランプが点灯に変わります。

3 操作したい機器にリモコンを向けて、その機器に該当するメーカーコード（59 ページ）を入力する。

- 正しく設定されると電源 ON/OFF 信号がリモコンから送信され、操作したい機器の電源が ON または OFF に切り換わります。
- メーカーコードが正しく入力されても間違って入力されても手順 2 へ戻ります。
- 機器の電源が ON/OFF しない場合で、その機器に別のメーカーコードがある場合は、手順 2 から別のコードでやり直してみてください。

4 他の機器もプリセットコードを設定したいときは手順 2 ～ 3 を繰り返す。

メモ

1・テレビ関係のコード（テレビ、CATV、衛星チューナーなど）は **TV/SAT** または**テレビ操作（シフト＋DVD 5.1）**ボタンにのみ設定することができます。
2 **AV アンプ**ボタンには登録できません。

5 AV アンプボタンを押して設定を終了する。

ダイレクトファンクション機能

- 工場出荷時の設定：**ON**

ダイレクトファンクションは**マルチコントロール**ボタンを押したときに、本機の入力を切り換えるかどうかを設定する機能です。オフにすると入力は切り換わらずにリモコンの操作モードのみ切り換わります。オンにすると入力もリモコン操作モードも切り換わります。[1]

1 AV アンプボタンを押しながら数字ボタンの 4 を押す。

リモコンの LED ランプが点滅します。

2 設定したいマルチコントロールボタンを押す。

リモコンの LED ランプが点灯に変わります。

3 オンに設定したいときは数字ボタン 1 を、オフに設定したいときは数字ボタン 2 を押す。

4 AV アンプボタンを押して設定を終了する。

リモコンの設定オールリセット

リモコンに設定されたすべての機能を解除して工場出荷時に戻します。

1 AV アンプボタンを押しながら数字ボタンの 0 を 3 秒間押し続ける。

リモコンの LED ランプが 3 回点滅し、リモコンに設定されたすべての機能をリセットします。

メモ

1 マルチコントロールの **TV 操作**（**シフト＋DVD 5.1**）にはダイレクトファンクションを設定できません。

テレビの操作

プリセットコードを入力することで、本機のリモコンで他機器を操作できます。詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定」（53 ページ）をご覧ください。**マルチコントロール**ボタンで機器を選択します。

ボタン	機能	機器
テレビ ⏻	**テレビ操作**ボタンにプリセットコード設定した機器の電源を入／切します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
テレビ 入力切換	映像入力を切り換えます（機種によってはできないものがあります）。	テレビ
テレビ チャンネル +/–	チャンネルを選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
テレビ音量 +/–	音量を調整します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
入力機器 ⏻	テレビや CATV の電源を入／切します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
音声 （シフト + ▶▶）	音声を選択します。	衛星チューナー / テレビ
CH+/– （シフト + ⬆/⬇）	チャンネルを選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
番組表	番組表を表示します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
戻る	**RETURN** または **NEXT** を選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
メニュー	メニュー画面を選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
数字ボタン	チャンネルを選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
+10 ボタン	チャンネルを選択します（2 桁以上の数値入力用）。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
決定 / DISC	チャンネルを入力します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
⬅➡⬆⬇/ 決定	メニュー画面操作時に項目の選択、調整をします。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
BS 5 （シフト + 7）	BS 5 チャンネルを選択します。	衛星チューナー / テレビ

ボタン	機能	機器
BS 7 (シフト + 8)	BS 7 チャンネルを選択します。	衛星チューナー／テレビ
BS 9 (シフト + 9)	BS 9 チャンネルを選択します。	衛星チューナー／テレビ
BS 11 (シフト + 0)	BS 11 チャンネルを選択します。	衛星チューナー／テレビ
番組情報	番組情報を表示します。	CATV/ 衛星チューナー

メモ

リモコンの**テレビ基本操作ボタン**は、**テレビ操作**（**シフト + DVD 5.1**）ボタンにプリセットコードを設定したテレビの操作に使用します。そのため、使用するテレビが 1 台のときは**マルチコントロール**の**テレビ操作**（**シフト + DVD 5.1**）ボタンにプリセットコードを設定してください。2 台のときは**テレビ操作**（**シフト + DVD 5.1**）ボタンに通常よく使うテレビのほうを設定してください。

他機器の操作

プリセットコードを入力することで、本機のリモコンで他機器を操作できます。詳しくは、「他機器を操作するためのリモコン設定」（53 ページ）をご覧ください。**マルチコントロール**ボタンで機器を選択します。

ボタン	機能	機器
入力機器 ⏻	電源を入／切（スタンバイ）します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/ DVR プレーヤー / カセットデッキ
⏮	再生中のトラック／チャプターの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラック／チャプターの先頭に戻ります。	CD/MD/CD-R/DVD/LD プレーヤー
⏭	次のトラック／チャプターの先頭に進みます。続けて押すと、さらに次のトラック／チャプターの先頭に進みます。	CD/MD/CD-R/DVD/LD プレーヤー
⏸	再生や録音／録画を一時停止します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/ DVR プレーヤー / カセットデッキ
▶	再生を開始します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVR プレーヤー / カセットデッキ
⏩	早送りします。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/ DVR プレーヤー / カセットデッキ
⏪	早戻しします。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/ DVR プレーヤー / カセットデッキ
■	再生を停止します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/ DVR プレーヤー / カセットデッキ
● 録画（シフト + ▶）	録音／録画を開始します。	MD/CD-R/VCR/ DVR プレーヤー / カセットデッキ
録画停止（シフト + ■）	録音／録画を停止します。	MD/CD-R/VCR/ DVR プレーヤー / カセットデッキ
数字ボタン	トラック番号を入力して、トラックを選択します。	CD/MD/CD-R/VCR/LD プレーヤー
	メニュー画面を操作します。	DVD/DVR プレーヤー
+10 ボタン	10 以上のチャプター／トラックを選ぶのに使用します（たとえば、トラック **13** を選ぶとき、**+10** と **3** を押します）。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/DVR/LD プレーヤー

ボタン	機能	機器
決定 / DISC	ディスクを選択します。	CD チェンジャー
	ディスクを取り出します。	MD プレーヤー
	ビデオとテレビチューナーを切り換えます。	VCR/DVR プレーヤー
	CLEAR ボタンとして使用します。	DVD プレーヤー
	再生面を切り換えます。	LD プレーヤー
トップメニュー	トップメニュー画面を表示します。	DVD/DVR プレーヤー
メニュー	ディスクのメニュー画面を表示します。	DVD/DVR プレーヤー
⬆	一時停止します。	カセットデッキ
⬇	停止します。	カセットデッキ
決定	再生を開始します。	カセットデッキ
⬅/➡	早戻し／早送りします。	カセットデッキ
⬅➡⬆⬇ / 決定	メニュー画面／項目を操作します。	DVD/DVR プレーヤー
番組表	設定のメニュー画面を表示します。	DVD/DVR プレーヤー
CH +/– **（シフト + ⬆/⬇）**	チャンネルを選択します。	VCR/DVR プレーヤー
	トラックを選択します。	DVD/CD/MD/CD-R/ カセットデッキ
音声 **（シフト + ▶▶）**	音声言語または音声チャンネルを切り換えます。	DVD/DVR プレーヤー
字幕 **(シフト + ◀◀）**	多言語収録のソフトで、字幕の表示／字幕言語を切り換えます。	DVD/DVR プレーヤー
HDD **（シフト + I◀◀）**	DVD/HDD レコーダーで、ハードディスク操作に切り換えます。	DVR プレーヤー
DVD **（シフト + II）**	DVD/HDD レコーダーで、DVD 操作に切り換えます。	DVR プレーヤー
ワンタッチダビング **（シフト + トップメニュー）**	DVD レコーダーのワンタッチダビング機能を実行します。	DVR プレーヤー

メーカーコードリスト

以下のメーカーコードを本機のリモコンにプリセットすることでその機器を本機のリモコンで操作することができるようになります。

メーカーコードにあるメーカーのプリセットコードをすべて呼び出しても、メーカーや機器によっては操作できなかったり異なるはたらきをすることがあります。

DVD

メーカー	コード
PIONEER	000,009,018,020,021
AKAI	007
DENON	010
HITACHI	012
VICTOR	004
MICROSOFT	017
PANASONIC	003,019
PHILIPS	013
RCA	008,011
SAMSUNG	005
SHARP	006
SONY	002,016
THOMSON	015
TOSHIBA	001
ZENITH	014

LD

メーカー	コード
PIONEER	100,111
KENWOOD	103
PANASONIC	105,106
PHILIPS	104
RCA	107
SONY	101

TV TV/SAT テレビ操作

メーカー	コード
PIONEER	600,631,632,633,634,635,636,637,638,639,667,668,669,670
AIWA	660
FUNAI	658
GE	611,628
GENERAL	666
GOLDSTAR	610,623
GRANDIENTE	630
HITACHI	606,624,625,664
VICTOR	613,665
MAGNABOX	612,629
MITSUBISHI	609
NEC	659
PANASONIC	608,622,671
PHILIPS	607
RCA	601,615,616,617,618
SANYO	614,621
SHARP	602,619,627,661
SONY	604
TOSHIBA	605,626,663
ZENITH	603,620

VCR(VTR)

メーカー	コード
PIONEER	400,437,438,439
FISHER	412,426,427
GOLDSTAR	411
GRANDIENTE	441
HITACHI	406,434,436,465,472
VICTOR	407,428,429,430,431
MAGNABOX	414
MITSUBISHI	409,420,421,422,423,424,466,467,470
PANASONIC	408,432,433,462,463,473
RCA	401,413,415
SANYO	410,425,435,468
SHARP	402,418,419,469,471
SONY	404,416,417,457,458,459,460,461,475,476,477,478
TOSHIBA	405,464,474
ZENITH	403

STB TV/SAT テレビ操作

(CATV、BSデジタルチューナー、BSデジタルチューナー内蔵テレビ)

メーカー	コード
PIONEER	200,207,210,229,231,232,234,253,700,718
AICHI DENSI	734
AIWA	562,563,564
BELL	208
DX ANNTENA	732,733
ECHOSTAR	205
FUJITSU	722,723,724
HITACHI	556,721
JEROLD	701,702,703,704,711,712,713,714,715,716
VICTOR	227,551,552,553
MASPRO	559,560,561,729
NEC	720
PANASONIC	558,230,226,725,726,728
PRIMESTAR	206
RCA	201,203,209
SA	705,706,708,709,731
SHARP	554
SUMITOMO	730
SONY	202,557
TOSHIBA	222,228,555,719
ZENITH	707,710,717

CD

メーカー	コード
PIONEER	300
DENON	309
VICTOR	303
KENWOOD	310,311,321
MARANTZ	323
ONKYO	307,308,320
PANASONIC	304,326
PHILIPS	312,313,322
RCA	302,319
SANYO	313
SONY	301,316,317,318
TEAC	305,306,324,325,327
YAMAHA	314,315,328

DVR

メーカー	コード
PIONEER	456,480,481,482,483,484,487,488,489,493
TOSHIBA	
PANASONIC	485,486,491,492
SONY	490

MD

メーカー	コード
PIONEER	900,908
DENON	906
KENWOOD	903
ONKYO	905
SHARP	902
SONY	901
TEAC	904

TAPE

メーカー	コード
PIONEER	800,814
DENON	810
FISHER	813
VICTOR	802
KENWOOD	804,807
ONKYO	808,809
PANASONIC	803
SONY	801,806
TEAC	805
YAMAHA	811,812

DAT

メーカー	コード
PIONEER	907

CD-R

メーカー	コード
PIONEER	345
PHILIPS	346
YAMAHA	347

第 12章：
その他

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら以下を調べてみてください。意外なミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気機器もあわせてお調べください。

以下の項目を調べても直らないときは、修理を依頼してください。

症状	改善策
電源が入らない。	・電源プラグを抜いて、もう一度差し込んでください。 ・スピーカーケーブルの芯線がリアパネルに接触していないか確認してください。接触していると電源が自動的に切れます。 ・電源が自動的に切れてしまうようなときは電源プラグを抜いて、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください。
自動的に電源が切れて⏻STANDBY/ON ボタンのランプが点滅している。	・1 分間待ってから電源を入れてみてください。それでも同じ症状が繰り返されるときは電源プラグを抜いて、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください。
入力切換を合わせても音声が出ない。	・機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「接続」（13 ページ）をご覧ください。 ・**消音**ボタンを押して、ミュートを解除してください。 ・入力信号の選択が正しいか確認してください。詳しくは「入力信号の選択」（34 ページ）をご覧ください。
入力切換を合わせても映像が出ない。	・機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「接続」（13 ページ）をご覧ください。 ・**入力切換**ボタンを押して、正しい入力に合わせてください。
ラジオ受信中に雑音が多い。	・アンテナを接続して最良な受信位置へ設置してください（20 ページ）。 ・受信が良好になるようにアンテナケーブルを十分に伸ばして壁に貼り付けるなどしてください。 ・FM 屋外アンテナに接続します。 ・受信が良好になるように、アンテナの方向と位置を変えてください。 ・AM 屋外アンテナまたは室内アンテナに接続します。 ・雑音を生じさせる機器の電源を切るか、または本機から遠ざけてください。 ・雑音を生じさせる機器から、アンテナを遠ざけてください。
放送局が自動的に選ばれない。	・屋外アンテナを接続します（20 ページ）。
サラウンドまたはセンタースピーカーから音が出ない。	・スピーカーが正しく接続されているか確認してください（21 ページ）。 ・「スピーカーの設定」（43 ページ）をもう一度確認してください。 ・「スピーカー出力レベルの設定」（44 ページ）でスピーカーの出力レベルをもう一度確認してください。

症状	改善策
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	・「スピーカーの設定」（43 ページ）で、サラウンドバックスピーカーの設定をもう一度確認してください。 ・「スピーカー出力レベルの設定」（44 ページ）で、スピーカーの出力レベルをもう一度確認してください。 ・「サラウンドバックチャンネルを使う」（34 ページ）で、サラウンドバックチャンネルの設定が正しいか確認してください。
サブウーファー から音が出ない。	・サブウーファー を正しく接続して、電源を入れます。 ・サブウーファーに音量調整機能があれば、ボリュームを上げておきます。 ・再生しているドルビーデジタルや DTS 信号の中に低音域の LFE チャンネルが含まれていない。 ・サブウーファーの設定を **YES** または **PLUS** にします。詳しくは「スピーカーの設定」（43 ページ）をご覧ください。 ・「LFE アッテネーターの設定」（47 ページ）を **LFEATT0** または **LFEATT10** にします。
カセットデッキを再生すると雑音が出る。	・雑音が消えるまで、カセットデッキを本機から離してください。
DTS で収録されたソフトを再生しても音が出ない（または雑音が出る）。	・再生機器のデジタル出力レベルを最大から中間くらいにします。
DTS フォーマット CD のサーチ中に雑音が聞こえる。	・故障ではありませんが、スピーカーから雑音が大音量で出力されないように、DTS CD のサーチ中は本機の音量を下げてください。
リモコンが操作できない。	・電池を交換してください（6 ページ）。 ・フロントパネルのリモコン受光部から 7 m、左右 30°の範囲で操作してください（6 ページ）。 ・障害物を取り除くか、別の場所に移動させてください。 ・リモコン信号受光部に強い光が当たらないようにしてください。
ディスプレイの表示が暗い、または表示されない。	・リモコンの**ディマー**ボタンを押して、表示部の明るさを選択してください。
何らかの操作のあと、ディスプレイ表示が点滅する。	・操作禁止を意味します。入力信号やリスニングモードによっては選択できない機能があります。
USB マスストレージ機器が本機で認識されない。	・一度電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。 ・USB 端子に正しく接続されているかどうか確認してください。 ・USB メモリーのフォーマットが FAT16 または FAT32 であるかどうか確認してください。FAT12、NTFS、HFS は本機で再生することができません。 ・USB ハブには対応しておりません。
USB ERR3 と表示され USB メモリーの再生ができない。	・「USB メモリーの再生」（51 ページ）の「重要」のすべての項目を確認、実行し、それでも USB ERR3 が表示されるときは、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください。
USB メモリーのファイルを再生できない。	・著作権保護のかかった WMA や MPEG-4 AACのファイルを本機で再生することはできません（パソコンなどで CD などの音楽データを取り込む場合、設定によっては著作権保護がかかることがあります）。 ・再生しようとしているファイルの圧縮フォーマットに本機が対応しているかどうか確認してください（52 ページ）。
リモコンの ▶ ボタンを押しても USB を再生しない。	・リモコンが USB モードになっていません。**シフト+ FM** を押してリモコンを USB モードにしてください。

リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧

この表は出力する最大の出力チャンネル数を示したもので、 厳密なデコード ch 数とは異なります。
表中の灰色で表示された設定は、本機により最適なモードが自動選択されます。ユーザーによる選択はできません。

マルチ ch 信号の場合

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>入力信号</th><th>STANDARD</th><th>AUTO SURROUND</th><th>ADVANCED SURROUND</th><th>STEREO/DIRECT</th></tr>
<tr><td rowspan="14">SB SP 有り</td><td rowspan="7">SBch PROCESSINGモード ON</td><td>WMA9 Pro
(6.1ch信号/7.1ch信号)</td><td>ストレートデコード再生
(最大6.1ch)</td><td rowspan="10">ストレートデコード再生
(最大6.1ch)</td><td></td><td rowspan="21">ダウンミックス再生
(最大2.1ch)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタルサラウンドEX
(6.1ch再生検出信号付)</td><td>DD DIGITAL EX
DD PLIIx Music
(最大6.1ch)</td><td rowspan="6">ADV. MOVIE
ADV. MUSIC
TV SURROUND
SPORTS
ADV. GAME
EXPANDED
6ch STEREO
Virtual Surround
(最大6.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS-ES
(6.1ch信号/6.1ch再生検出信号付)</td><td>DD DIGITAL EX
DD PLIIx Music
(最大6.1ch)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタル
(5.1ch信号等)</td><td>DTS ES Matrix/DTS ES Discrete
DTS+DD PLIIx Music
(最大6.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS
(5.1ch信号等)</td><td>DTS+Neo:6
DTS+DD PLIIx Music
(最大6.1ch)</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC
(5.1ch信号等)</td><td>AAC+DD DIGITAL EX
AAC+DD PLIIx Music
(最大6.1ch)</td></tr>
<tr><td>WMA9 Pro
(5.1ch信号等)</td><td>WMA9 Pro+DD DIGITAL EX
WMA9 Pro+DD PLIIx Music
(最大6.1ch)</td></tr>
<tr><td rowspan="7">SBch PROCESSINGモード AUTO</td><td>WMA9 Pro
(6.1ch信号/7.1ch信号)</td><td>ストレートデコード再生
(最大6.1ch)</td><td></td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタルサラウンドEX
(6.1ch再生検出信号付)</td><td>DD DIGITAL EX
DD DIGITAL+PLIIx Movie
(最大6.1ch)</td><td rowspan="6">ADV. MOVIE
ADV. MUSIC
TV SURROUND
SPORTS
ADV. GAME
EXPANDED
6ch STEREO
Virtual Surround
(最大6.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS-ES
(6.1ch信号/6.1ch再生検出信号付)</td><td>DTS ES Matrix
DTS ES Discrete
(最大6.1ch)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタル (5.1ch信号等)</td><td rowspan="4">ストレートデコード再生
(最大5.1ch)</td><td rowspan="11">ストレートデコード再生
(最大5.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS (5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC (5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td>WMA9 Pro (5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="7">SB SP 無し または SBch PROCESSINGモード OFF</td><td>WMA9 Pro
(6.1ch信号/7.1ch信号)</td><td rowspan="7">ストレートデコード再生
(最大5.1ch)</td><td></td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタルサラウンドEX
(6.1ch再生検出信号付)</td><td rowspan="5">ADV. MOVIE
ADV. MUSIC
TV SURROUND
SPORTS
ADV. GAME
EXPANDED
6ch STEREO
Virtual Surround
(最大5.1ch)</td></tr>
<tr><td>DTS-ES
(6.1ch信号/6.1ch再生検出信号付)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタル (5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td>DTS (5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC (5.1ch信号等)</td></tr>
<tr><td>WMA9 Pro (5.1ch信号等)</td><td></td></tr>
</table>

2ch 信号／ハイサンプリング信号の場合

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>入力信号</th><th>STANDARD</th><th>AUTO SURROUND</th><th>ADVANCED SURROUND</th><th>STEREO/ DIRECT</th></tr>
<tr><td rowspan="4">SB SP 有り</td><td rowspan="4">SBch PROCESSINGモード ON/AUTO</td><td>ドルビーサラウンド信号</td><td rowspan="4">DD PLIIx Movie
DD PLIIx Music
DD PLIIx Game
DD PRO LOGIC *1
Neo:6 Cinema *2
Neo:6 Music *2
（最大6.1ch）</td><td>DD PLIIx Movie
（最大6.1ch）</td><td rowspan="3">ADV. MOVIE
ADV. MUSIC
TV SURROUND
SPORTS
ADV. GAME
EXPANDED
6ch STEREO
Virtual Surround
（最大6.1ch）</td><td rowspan="8">ステレオ再生
（最大2.1ch）</td></tr>
<tr><td>DTS　サラウンド信号</td><td>Neo:6 Cinema
（最大6.1ch）</td></tr>
<tr><td>アナログ信号、PCM、
ドルビーデジタル ステレオ信号
DTS　ステレオ信号
MPEG-2 AAC　ステレオ信号</td><td rowspan="2">ステレオ再生
（最大2.1ch）</td></tr>
<tr><td>WMA9 Pro ステレオ信号</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">SB SP 無し または</td><td rowspan="4">SBch PROCESSINGモード OFF</td><td>ドルビーサラウンド信号</td><td rowspan="4">DD PLII Movie
DD PLII Music
DD PLII Game
DD PRO LOGIC
Neo:6 Cinema *2
Neo:6 Music *2
（最大5.1ch）</td><td>DD PLII Move
（最大5.1ch）</td><td rowspan="3">ADV. MOVIE
ADV. MUSIC
TV SURROUND
SPORTS
ADV. GAME
EXPANDED
6ch STEREO
Virtual Surround
（最大5.1ch）</td></tr>
<tr><td>DTS　サラウンド信号</td><td>Neo:6 Cinema
（最大5.1ch）</td></tr>
<tr><td>アナログ信号、PCM
ドルビーデジタル ステレオ信号
DTS　ステレオ信号
MPEG-2 AAC　ステレオ信号</td><td rowspan="2">ステレオ再生
（最大2.1ch）</td></tr>
<tr><td>WMA9 Pro ステレオ信号</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">SB SPの接続によらない</td><td rowspan="2">SBch PROCESSINGモードによらない</td><td>DTS96/24
（5.1ch信号等）</td><td>ストレートデコード再生
（最大5.1ch）</td><td>ストレートデコード再生
（最大5.1ch）</td><td rowspan="2"></td><td>ダウンミックス再生
（最大2.1ch）</td></tr>
<tr><td>PCM 96 kHz、PCM 88.2 kHz
DTS96/24 ステレオ信号</td><td>DD PLII Movie
DD PLII Music
DD PLII Game
DD PRO LOGIC
（最大5.1ch）</td><td>ステレオ再生
（最大2.1ch）</td><td>ステレオ再生
（最大2.1ch）</td></tr>
</table>

*1：DD PRO LOGIC は常に最大 5.1ch までの再生となります。

*2：MPEG-2 AAC ステレオ信号入力時は選択できません。

メモ

- DVD5.1ch 入力のときは、リスニングモードの効果を加えることはできません。
- STEREO / DIRECT/ Phones Surround/ バーチャルサラウンドバック / VIR.SURR. モード時は、サラウンドバック出力はありません。
- 入力信号によっては、サラウンドバック信号を生成できないものがあります。

工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
スピーカーの有り無し / 低域再生能力	すべて SMALL（小）※	43
サブウーファー	YES（有り）※	43
スピーカー出力レベル	0 dB（補正無し）	39、44
スピーカーまでの距離	すべて 3.0 m	39、44
クロスオーバー周波数	100 Hz	44
視聴環境の周波数特性の補正	全帯域 0 dB（補正無し）	40
デジタル入力の設定	リアパネル表記のとおり	45
D4 映像入力の設定	リアパネル表記のとおり	46
入力ファンクション	DVD/LD	8
入力信号の種類	AUTO（入力信号により変化します）	34
SBch PROCESSING モード	SB ON	34
リスニングモード	AUTO SURROUND	31
アコースティックキャリブレーション EQ	OFF（MCACC 設定後は ALL CH）	40
ミッドナイトリスニング機能	OFF	36
ラウドネス機能	OFF	36
トーンコントロール機能	BASS 0 dB/TREBLE 0 dB (OFF)	36
ダイアログエンハンスメント機能	OFF	36
サウンドレトリバー機能	OFF	36
ディスプレイの明るさ	一番明るい	29
ダイナミックレンジコントロールの設定	OFF	47
デュアルモノラル音声の設定	CH1	47
LFE アッテネーターの設定	ATT 0 dB	47

※本機にはサブウーファー検出機能がついています。サブウーファーが接続されていない場合は変更します。

本機の初期化

以下の手順で、本機のすべての設定を工場出荷時の状態に初期化します。初期化はフロントパネルで行います。

1　本機の電源をスタンバイ状態に切り換える。

2　TONEボタンを押しながら⏻ STANDBY/ONボタンを約３秒間押し続ける。

3　表示部に RESET? と表示されたら、ENTER を押す。

表示部に **OK?** と表示されます。

4　SETUP を押す。

表示部に **OK** と表示され、本機が工場出荷時の状態に初期化されたことを示します。

電源コードについての注意

電源コードは電源プラグ部を持って取り扱ってください。ショートや感電の原因となるため、コードを引っ張ってプラグを抜いたり、濡れた手で電源コードに触れたりしないでください。電源コードを傷つけないため、本機や家具の下敷きにならないようにしてください。電源コードは結び目を作ったり、他のコードと一緒に結んだりしないでください。

電源コードは、踏みつけられないように配線してください。破損したコードは火災や感電を引き起こします。電源コードに破損がないかを定期的に確認してください。

もし破損していたら、お買い上げの販売店へ交換を依頼してください。

本機のお手入れについて

- 磨き布や乾いた布で、表面のほこりや汚れを拭き取ってください。
- 表面が汚れているときは、中性洗剤を水で５～６倍に薄めたものに柔らかい布を浸してよく絞って、汚れを拭き取り、乾燥した布でから拭きします。家具用のワックスや洗剤は使用しないでください。
- 製品の表面がさびることがありますので、シンナー、ベンジン、殺虫剤などを製品にかけたり、製品の近くで使用しないでください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

仕様

アンプ部

実用最大出力 (JEITA、1 kHz、10 %、6 Ω)
フロント.................................. 100 W+100 W
センター.. 100 W
サラウンド.............................. 100 W+100 W
サラウンドバック .... 100 W
定格出力（ステレオ時）
20 Hz ～ 20 kHz、0.09 %、6 Ω
....80 W + 80 W

オーディオ部

入力端子（感度／インピーダンス）
LINE 系.................................. 200 mV/47 kΩ
周波数特性
LINE 系................... 5 Hz ～ 100 kHz、$^{+0}_{-6}$ dB
出力端子（レベル／インピーダンス）
REC OUT 系 .... 200 mV/2.2 kΩ
トーンコントロール
BASS .... ±6 dB （100 Hz）
TREBLE.............................. ±6 dB （10 kHz）
LOUDNESS...................... （音量－60 dB 時）
.... +10 dB/+5 dB （100 Hz/10 kHz）
SN 比 (IHF、ショートサーキット、A ネットワーク)
LINE 系.. 96 dB

ビデオ部（コンポジット / S）

入力端子（感度／インピーダンス）... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル／インピーダンス）
.... 1 Vp-p/75 Ω
SN 比 .... 55 dB
周波数特性..................... 5 Hz ～ 10 MHz、$^{+0}_{-6}$ dB

ビデオ部（D4 ビデオ部）

入力端子（感度／インピーダンス）... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル／インピーダンス）
.... 1 Vp-p/75 Ω
SN 比 .... 55 dB
周波数特性..................... 5 Hz ～ 10 MHz、$^{+0}_{-6}$ dB

FM チューナー部

受信周波数................... 76.0 MHz ～ 90.0 MHz
実用感度..... モノラル : 15.2 dBf（1.6 μV/75 Ω）
S/N50dB 感度
.... モノラル: 20.2 dBf（2.8 μV/75 Ω）
.... ステレオ : 41.2 dBf（31.6 μV/75 Ω）
SN 比（85 dBf 入力時）.......... モノラル : 76 dB
.... ステレオ : 72 dB
高調波歪率................. ステレオ : 0.5 %（1 kHz）
実効選択度.......................... 65 dB（± 400 kHz）
ステレオセパレーション........... 40 dB（1 kHz）
周波数特性............... 30 Hz ～ 15 kHz（±1 dB）
アンテナ .... 75 Ω 不均衡型

AM チューナー部

受信周波数...................... 531 kHz ～ 1629 kHz
受信感度（付属ループアンテナ）......... 350 μV/m
SN 比 .... 50 dB
アンテナ .... ループアンテナ

電源部・その他

電源........................... AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力... 300 W
スタンバイ時.. 0.45 W
予備電源コンセント (連動) .... 最大 100 W
外形寸法 (幅 x 高さ x 奥行)
.... 420 mm x 158 mm x 352.5 mm
質量（本体のみ）... 8.7 kg

付属品

セットアップ用マイク.. 1
単 3 形乾電池 (動作確認用) 2
リモコン.. 1
AM ループアンテナ 1
FM アンテナ 1
保証書.. 1
取扱説明書.. 1

メモ

仕様と外観は改良のため予告なく変更することがあります。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後 8 年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご相談・ご依頼ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。それでも異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などで、お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、裏表紙の「ご相談窓口のご案内」･「修理窓口のご案内」をご覧になり、修理受付センターにご相談ください。

■ 連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：AV マルチチャンネル・アンプ
- 型番：VSX-516
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物や公園など）

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

本製品は家庭用オーディオ機器（オーディオ・ビデオ機器）です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用（例：店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など）はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号（連続波）などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S26_Ja

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか？
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

故障や事故防止のためすぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、「保証とアフターサービス」（上記）をお読みのうえ、修理受付センター（裏表紙）に点検をご依頼ください。

サービスステーションリスト

認定店は不在の場合もございますので、持ち込み希望のお客様は修理受付センターにご確認ください。サービス拠点への電話は、修理受付センターにてお受けします。（沖縄の方は沖縄サービスステーションにてお受けします。）

●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆札幌サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆仙台サービスセンター	FAX 022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX 024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1FD号
盛岡サービスステーション	FAX 019-659-1895	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野4-3-34
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目346-1

●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
墨田サービスステーション	FAX 03-3621-7610	〒130-0011	墨田区石原4-27-9　中島ICハイツ1F
城北サービスステーション	FAX 03-3550-3625	〒175-0083	板橋区徳丸4-11-4
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1F

●関東・甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
新潟サービスステーション	FAX 025-241-1879	〒950-0913	新潟市鐙1-5-23
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆千葉サービスセンター	FAX 043-207-2555	〒263-0014	千葉市稲毛区作草部町1369-1　椎の実ハイツ1F
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
☆埼玉サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-1
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
☆神奈川サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜北サービス認定店	FAX 045-943-3155	〒224-0036	横浜市都筑区勝田南1-19-17
厚木サービス認定店	FAX 046-224-7724	〒243-0807	厚木市金田339-1　金田コーポフロンテア201
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX 0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆名古屋サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービスステーション	FAX 054-237-5691	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-6-5
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒435-0042	浜松市篠ヶ瀬町415　ビラモデルナ5号
金沢サービスステーション	FAX 076-269-4758	〒920-0362	金沢市古府1丁目178
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		FAX	郵便番号	住所
☆大阪サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
大阪北サービス認定店	FAX	06-6453-5666	〒531-0076	大阪市北区大淀中3-9-4
大阪南サービス認定店	FAX	0722-75-2625	〒593-8322	堺市津久野町1-8-15　ローズマンション1F
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土4-2
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービスステーション	FAX	075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F
奈良サービス認定店	FAX	0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		FAX	郵便番号	住所
☆広島サービスセンター	FAX	082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F
岡山サービス認定店	FAX	086-244-8748	〒700-0975	岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX	0857-29-1290	〒680-0061	鳥取市立川町5-240-1
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービスステーション	FAX	087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1Ｆ
松山サービス認定店	FAX	089-951-6270	〒791-8067	松山市古三津5-10-35　商船ビル1Ｆ

●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		FAX	郵便番号	住所
☆福岡サービスセンター	FAX	092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
北九州サービス認定店	FAX	093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX	097-549-2420	〒870-0851	大分市大石町5丁目1-1
鹿児島サービスステーション	FAX	099-224-7692	〒892-0841	鹿児島市照国町3-21　第二大見ビル2Ｆ
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1

●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

拠点		TEL/FAX	郵便番号	住所
沖縄サービスステーション	TEL	098-879-1910	〒901-2122	浦添市勢理客4-18-1　トヨタマイカーセンター3Ｆ
	FAX	098-879-1352		

平成１８年１月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■0070－800－8181－22　■一般電話　03－5496－2986

■ファックス　03－3490－5718

■インターネットホームページ　http://www.pioneer.co.jp/support/index.html
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120－5－81028（ゴーハパイオニア）　■一般電話　03－5496－2023

■ファックス　0120－5－81029

■インターネットホームページ　http://www.pioneer.co.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098－879－1910

■ファックス　098－879－1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120－5－81095　■一般電話　0538－43－1161

■ファックス　0120－5－81096

平成18年1月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.016

JIS C 61000-3-2適合品　D50-5-10-1_A_Ja

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。